

学報

2016. July

vol. 57



看護学科新入生交流会



ベトナム バックマイ病院と包括交流協定締結



特集

Special Feature

将来像策定に関する講演会

平成27年度決算

新入生挨拶



TBL Best Teacher 表彰式



熊本地震災災害義援金寄附



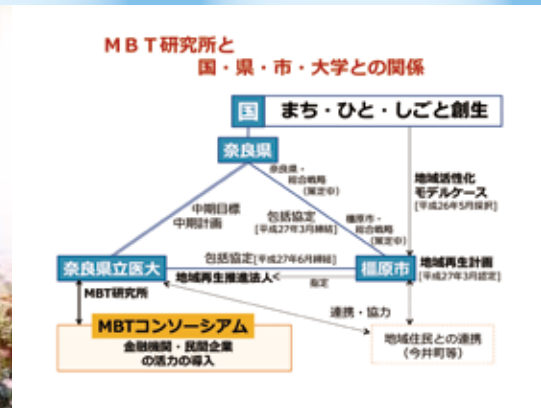
期日前投票所設置



将来像策定に関する講演会



看護功労者知事表彰



MBT研究所開設



新人看護職員研修



医学科新入生歓迎会



奈良県立医科大学
Nara Medical University

中島佐一学術研究奨励賞授賞式

Contents

特集	「将来像策定に関する講演会」が開催されました	3
	平成27年度 公立大学法人奈良県立医科大学決算	4
	平成28年度 新入生挨拶	5
	退任のご挨拶	5
	事務部門紹介（財務会計課）	5
	MBT(医学を基礎とするまちづくり)研究所が開設されました	6
	研究紹介	7
	図書館だより	8
	産学官連携だより	9
	クラブ紹介	9
Campus News	小児科学教室の嶋教授の研究成果がNEJM電子版に掲載されました	10
	バックマイ病院(ベトナム)と学術、 教育及び医療の連携・協力に関する包括交流協定を締結しました	10
	パンの販売を開始しました	10
	大学院看護学研究科のオープンキャンパス2016を開催しました	11
	新人看護職員研修を行っています	11
	新入生オリエンテーションを行いました	12
	「平成28年熊本地震」の義援金を寄附しました	12
	奈良医大内に初めて期日前投票所が設置されました	12
Winner Report	平成28年度厳樞学術奨励賞の表彰式が行われました	13
	第23回中島佐一学術研究奨励賞の授賞式を開催しました	13
	第5回奈良県立医科大学女性研究者学術研究奨励賞について	13
	叙勲受章者のお知らせ～心からお祝い申し上げます～	13
	特別共同研究助成事業及び若手研究者研究助成事業が採択されました	14
	第5回サイエンス・インカレにおいてTasly生命科学賞を受賞しました	14
	平成27年度TBL Best Teacher表彰式を行いました	15
	看護功労者知事表彰	15
	31st Annual Congress of the European Association of Urology 2016 においてThe Best Poster 賞を受賞しました	15
	第23回日本泌尿器科学会学会賞(臨床部門)を受賞しました	16
	第59回関西胸部外科学会学術集会でYoung Investigator Awardを受賞しました	16
	第43回日本脾・膵島移植研究会において、伊藤壽記会長(大阪大学教授)より、 山田高嗣講師に学会賞が授与されました	16
	平成28年度(第1回)若手研究者国際学会発表助成事業 助成者決定	16
	日本麻酔科学会で最優秀演題を受賞しました	17
	第70回日本口腔科学会学術集会で学会賞優秀ポスター賞を受賞しました	17
	第70回日本口腔科学会学術集会で学会賞優秀ポスター賞を受賞しました	17
	平成28年度 文部科学省科学研究費助成事業の決定	18～21
Information	オープンキャンパス2016開催について	22
	大学院入試日程	22
	セミナー・講習会等	23
	「未来への飛躍基金」にご協力いただきありがとうございました	23
	メディア掲載情報／編集後記	24

「将来像策定に関する講演会」が開催されました

6月3日、キャンパス整備に向けた本学の将来像策定に関する講演会を開催しました。

本学は、過去2年間にわたり、県とも意見交換しながら、教育・研究部門の新キャンパス（県農業研究開発センター跡地）への全面移転と、現キャンパスでの附属病院施設の抜本的充実に向け、本学の将来像について検討を進めてきました。

将来像は、第2期中期計画策定時の考え方を踏襲し、「教育」・「研究」・「診療」・「まちづくり」・「法人運営」の5分野から構成することとしています。今般、「教育」・「研究」・「診療」に関する素案がまとまったので、『将来像中間取りまとめ』として、法人構成員にその全容を紹介するとともに、皆様からアンケートとインタビューによりご意見・ご提案をいただくことといたしました。

そこで、アンケートとインタビューに先立って、将来像の策定趣旨や中間取りまとめの内容について、法人構成員の理解を深めていただくため、素案作成の主体となった各役員らによる講演会を開催しました。

講演会では、始めに細井理事長から「法人を取り巻く環境と将来像策定の趣旨について」と題して、国の動向など本学を取り巻く様々な環境の変化とそれらへの対応としての将来像の意義について、紹介いただきました。

続いて、将来像の素案作成にかかる各分野の責任者として、「教育」については車谷教育・研究担当理事から、「研究」については嶋研究部長から、「診療」については古家医療担当理事から、それぞれ各分野の理念・方針と、それらに基づく今後の具体的取組案を紹介いただきました。

最後に、中川総務・経営担当理事から「まちづくり」、「法人運営」に関する検討状況と、キャンパス整備に向けた県の取組状況等について紹介いただきました。

将来像は、皆様からのご意見・ご提案を積極的に反映しながら、平成28年度末に最終取りまとめを行う予定です。今後とも積極的なご参画をお願いします。



講演に聞き入る参加者



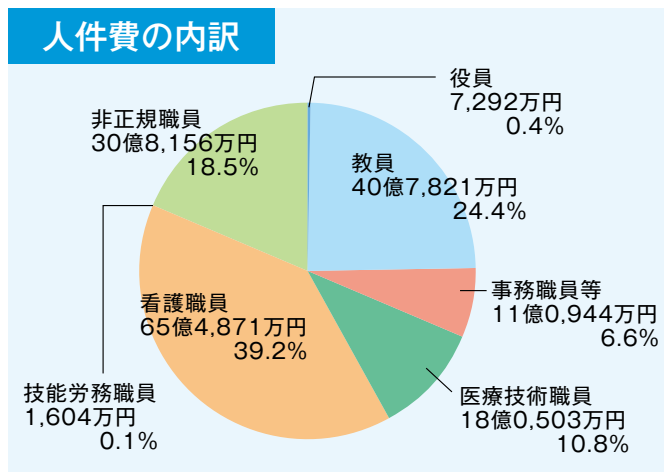
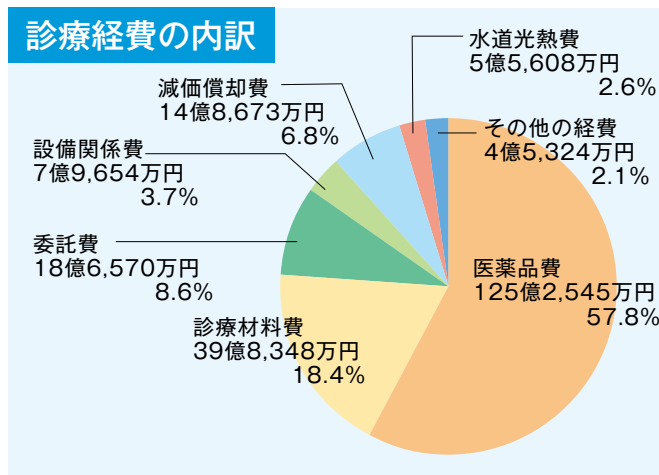
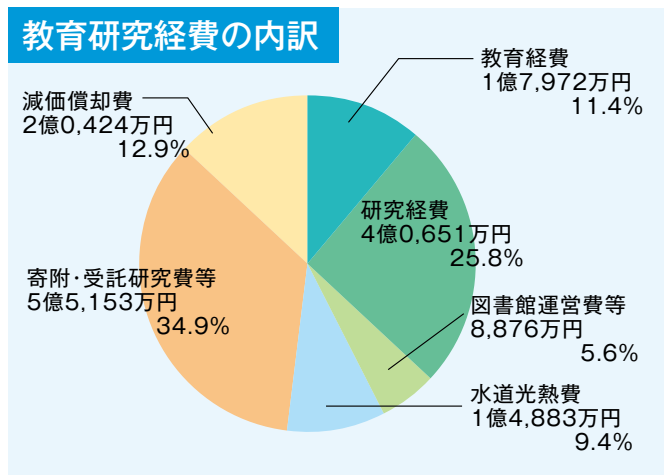
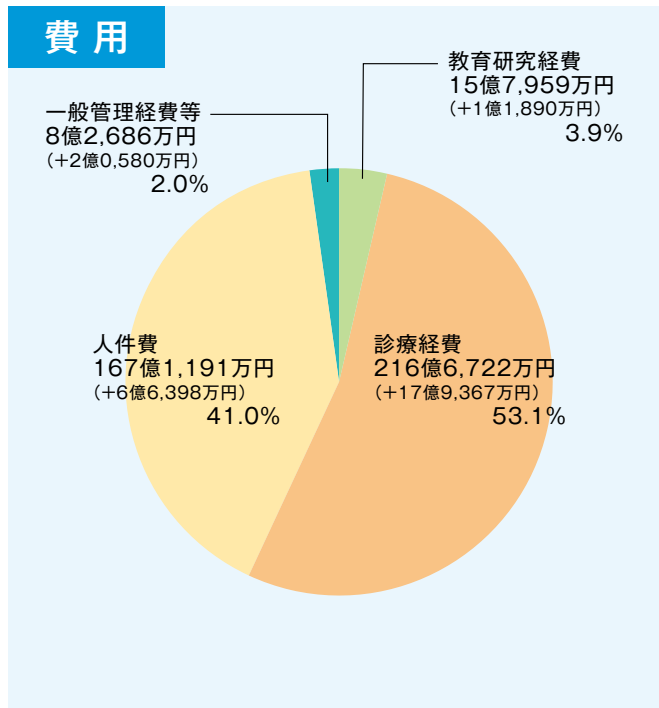
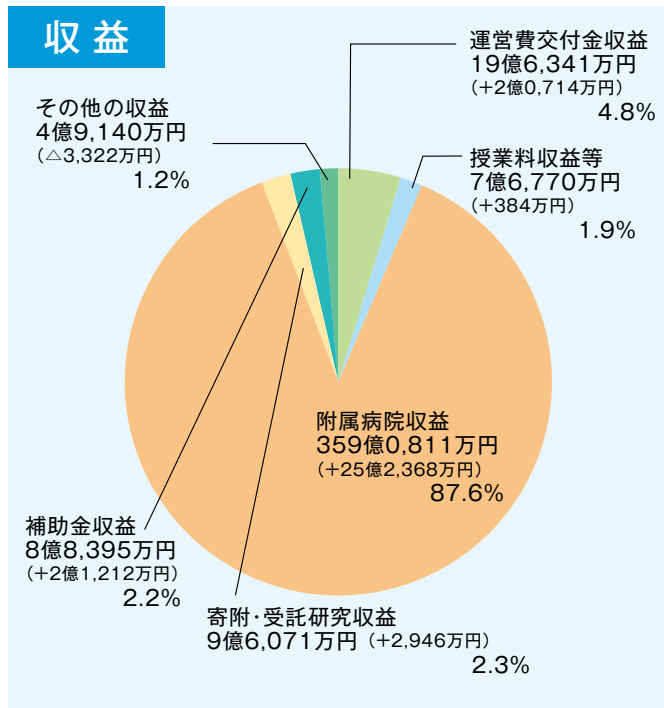
講演を行った各役員

平成 27 年度 公立大学法人奈良県立医科大学決算

平成 27 年度決算 【収益】 409 億 7,528 万円 (+29 億 4,300 万円) 【費用】 407 億 8,558 万円 (+27 億 8,235 万円)

差引 1 億 8,970 万円の黒字 (H26 / 2,905 万円の黒字)

※ () 内は前年との増減額



平成 27 年度は病院収入の大幅な増加や医薬品費、診療材料費の削減努力などにより、1 億 8,970 万円の黒字決算となり、前年度 (2,905 万円の黒字) より更に経営状況が好転した結果、法人化以降の累積赤字は 8 億 5,901 万円に減少しました。

第 2 期中期計画ではこの累積赤字の解消が目標となる一方で、本年度に完成する附属病院 E 棟棟の建設費や医療機器購入費等費用負担の増加が見込まれますので、皆さんには経費節減など目標達成に向けた取り組みへのご協力を引き続きよろしくお願いいたします。

平成 28 年度 新入生挨拶

医学科

津島 祐斗 (つしま ゆうと)

春暖の候、私たちは奈良県立医科大学に入学しました。期待と不安を抱きながら入学した日から早数ヶ月が経ち、先生方や教育支援課の方々、先輩方のおかげで学校生活にも慣れ始めました。また、勉強や部活動、と忙しくもありますが、多くの面で有意義な時間を過ごしています。

私たちは奈良県立医科大学の学生として自覚と責任をもち、知識や技術を習得し、そして人間性を高め、患者さんに寄り添えるような医師になるよう努めていく所存です。まだまだ至らぬところも多い私たちですが、先生方、先輩方、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



看護学科

西川 梨緒奈 (にしかわ りおな)

今春、晴れて、奈良県立医科大学に入学しました。

桜のまだ残るあの日から早数ヶ月が経ち、大学生活にもすっかり慣れ、頼りになる先輩方、友人にも恵まれ、部活動や課題など様々なことに追われながらも、楽しく充実した日々を過ごしています。

私たちは、奈良県立医科大学の学生であるという誇りと自覚を持ち、立派な医療従事者になれるよう共に努力し邁進していく所存です。

まだまだ未熟な私たちですが、先生方、先輩方、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



退任のご挨拶



監事

岸 秀隆

2016年6月末日、2015年度の監事監査報告書の提出を区切りとして退任いたしました。奈良県庁の定めた任期は来年3月末まででしたが、監事監査の責任範囲と結果は監事監査報告書に要約されるものであり、監事の任期と監査年度とは一致しているのが当然であるにもかかわらず、従来はそれが一致していなかったため、私の代で正常化をはかるべく退任を決意した次第です。

奈良医大は、これから大きな飛躍期を迎えます。しかし、飛躍が期待どおりの成果を生むかどうかは、奈良医大の役員、教員、職員、学生の皆さんが、それぞれの分野で、基本に則って地道な努力を継続できるかどうかにかかっているでしょう。

奈良医大が、10年後、20年後に大きく飛躍しているとともに、実り多い成果を享受していることをお祈り申し上げます。

事務部門紹介

Office Department

財務会計課

財務会計課は、大学本部棟の3階にあり、職員数は9名と事務部門の中では最小の所属で、2つの係で法人全体の金銭に関わる業務を行っています。

財務係は予算の策定や執行の管理、県との予算等の折衝、決算に関わる様々な処理や決算書(財務諸表)の作成、財務会計システムの管理などの業務を行っています。

平成27年度は黒字決算でしたが、平成28年度以降はE病棟の建設など大型投資の負担が大きくなり、法人の経営状況は厳しくなることが予想されています。そうした状況に対応するため、より一層の収入確保と経費削減が必要となってきますが、一方で奈良医大が行っている各種業務の質や職場環境を低下させず、円滑に法人運営を行っていくための予算編成が今後の課題であると考えております。

会計係は会計書類の審査・保管、資金の管理、支払の手続き、会計・契約関係規程の制定・改廃などの業務を行っています。

法人化当初は268億円の予算規模でしたが、平成28年度は485億円で約1.8倍となり、それに伴い会計処理件数も多くなっております。また、契約の方法など公的機関の会計執行に関する世の中の目が

厳しくなるにつれて、会計の仕組みも複雑化してきています。このように業務が肥大化、複雑化する中でも、これまでどおり正確・適切かつ迅速に会計処理をしていくことが必要と考えております。

このように、私どもの所属は事業や取組を実施するところではありません。法人内の各所属と金銭に関わる内部調整を行うことを役割としています。

今後も法人の運営が円滑に進んで行くよう皆様とともに努力していきたいと思っています。

(財務会計課長から皆様へのお願い)

法人の会計事務を円滑に行うため、請求や出張終了又は入金などがあつた場合、速やかに会計手続きを行うとともに、会計書類をためることなく、適宜当課へ提出いただきますようご協力お願いします。



MBT（医学を基礎とするまちづくり）研究所が開設されました

【目的】

MBT（医学を基礎とするまちづくり）とは、少子高齢社会を快適に暮らすことができるまちづくりの実現を目指して、本学が持つ医学的知見やノウハウをすべての産業に投入することによって、産業創生を行うと共に地方創生に寄与するものです。この理念を達成するための研究を行うことを目的に、MBT（医学を基礎とするまちづくり）研究所が開設されました。

【概要】

MBTについてはこれまでに、内閣府地域活性化モデルケース選定（2014年）、地域再生計画認定（橿原市 / 2015年）、総務省調査請負、および経産省FS事業（2015年度）などの動きがあり、順調に進んで参りました。今回のMBT研究所の設立を契機に、「(1) 国や県と連携し、総合戦略、地域再生戦略を実践する」、「(2) 他学や他の研究機関、MBTコンソーシアム等と連携し、MBTに関する研究、MBTの普及や啓発を行う」ことをさらに進めて参りたいと考えています。

具体的には、以下の計画を進めます。

- (1) 医大周辺地域における高齢者の外出行動、健康、都市空間の相関に関する研究
- (2) 橿原市との連携によるまちなか健康拠点・ラボの整備
- (3) 気象情報、ビーコン、自販機センサー等によるIoT宅外機械見守りシステムの実証と実用化
- (4) スマートメーター、音・湿・照度センサー、身体表面検知システム、バイタルセンサーによる宅内機械見守りシステムの実証と実用化
- (5) 医療介護専門職や宅配業者、成年後見人ら多職種連携による人の見守りシステムのモデル構築と実用化
- (6) 地域のケーブルテレビ会社と連携し、MBTのみならず、奈良医大全体の広報活動としての「おしえて！奈良医大（2016年8月公開予定）」の実践

本研究所における各計画の遂行により、(1) 都市部、へき地を含む奈良県内における地域包括ケアシステムの実現に寄与すること、(2) 未病時や退院後も医学的に見守られている安心な社会が構築でき、医療介護費の削減に寄与すること、(3) 医大周辺地域が、医学を基礎とする産業創生のメッカとしての認知されることで、医科大学の潜在力を上げるとともに、さらなる企業誘致や地域産業の活性化を促し、橿原市、および奈良県が、地方創生のモデルとなりうること、(4) MBTで得られた知見・ノウハウ・活動・成果を国内外に発信することで、全国各地、および海外へも展開しうること、などが期待されています。

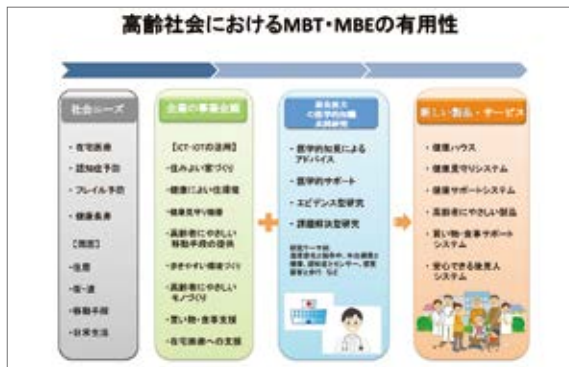
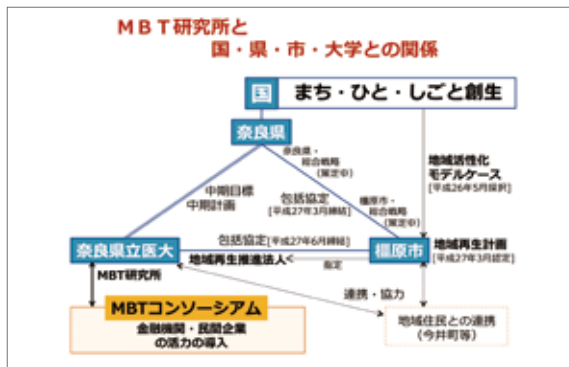
今後はMBTに関する国内外の認知度の向上、他大学・研究機関、および一般社団法人MBTコンソーシアム等とのさらなる連携による研究の深化、ICTを活用した退院支援・見守り・地域包括ケアシステムへの展開やサービス創出を行っていくための拠点として活動を推進していきます。

【2016年11月14日（月）開催予定のシンポジウム】

2012年よりMBTに関する共同研究を進めている早稲田大学との共催で、早稲田大学大隈講堂、およびリーガロイヤルホテル東京において、「医学を基礎とするまちづくり（MBT）コロキウム」を来る2016年11月14日（月）に開催する予定です。荒井奈良県知事やメイヨー・クリニック（ミネソタ州ロチェスター市）周辺再開発まちづくり局長を招聘し、MBTに関するシンポジウムを行うとともに、新産業創生のための企業と医師の交流会を開催する予定です。

【奈良県立医科大学「MBT（医学を基礎とするまちづくり）研究所」組織体制】

場所	基礎医学棟5階
メンバー	研究所長 細井裕司（理事長・学長） 研究教授 細川洋治（産学官連携推進センター兼務） 研究教授 仲川孝彦（産学官連携推進センター兼務） 研究教授 梅田智広（産学官連携推進センター兼務） 助教 遊佐敏彦（産学官連携推進センター兼務）
事務局	研究推進課



呼吸器と全身のクロストーク



内科学第二講座 教授
(呼吸器・アレルギー・血液内科)
木村 弘

私達の教室では、呼吸器疾患においては1)肺高血圧症(PH)、2)慢性閉塞性肺疾患(COPD)、3)閉塞性睡眠時無呼吸症候群(OSAS)の病態と新規治療法の開発について基礎・臨床の双方から研究に取り組んできました。

1)呼吸器と全身のクロストークに注目するにあたって、私達は、肺と心臓の相互作用のもとに全身とのクロストークが成り立っているとの認識を深めてきました。例えば、臨床現場で多くの患者さんの訴えである『息切れ』を解明する際、肺と心臓、そして息切れを認識する中枢神経系とのフィードバック回路が重要なことから理解は容易だと思えます。そこで呼吸器と心臓をつなぐ肺循環に着目し臨床・研究に取り組みました。PHの病態を実験的PHモデルにて明らかにするとともに、肺血管拡張薬の併用療法における有効性の機序について、prostacyclin誘導体とphosphodiesterase type 5 inhibitors (PDE-5I)を併用した場合の相互作用機序を明らかにし米国呼吸器学会誌であるAm J Respir Crit Care Medに発表しました。この研究成果は、現在臨床現場で世界的に広まったupfront combination therapyの基盤を形成するものとして世界的に評価されています。また、プロスタサイクリン骨格を有しない、新規のプロスタサイクリン誘導体の基礎研究においては、同薬剤は半減期が長く、トロンボキサン抑制作用とともにhepatogrowth factorの誘導を来すことを見出し、実験的PHモデルにおいてこれまでの既存治療薬(エンドセリン受容体拮抗薬、PDE-5I)と比較して予後改善効果が顕著であることを明らかにしました。さらに、呼吸器疾患に伴う肺高血圧症において、肺血管拡張薬の適応症例をいかに見出すかについての臨床研究を継続しています。

2) COPDは喫煙を主因とする慢性呼吸器疾患であり、本邦では厚生労働省の掲げる健康21政策(第二次)でも、COPDは重要な『肺の生活習慣病』として取り上げられています。本学の地域健康医学講座が主導した藤原京スタディで呼吸機能測定を行い、奈良県の一般高齢者においても高率にCOPD患者が存在しており今後の対策が重要であることを指摘しました。このCOPDは多様な併存症を

有する全身性疾患として認識されています。COPDでは“pulmonary cachexia(呼吸器悪液質)”と呼ぶべき特徴的な栄養障害を伴っており、私達はこの栄養障害について基礎的、臨床的研究を行ってきました。栄養障害は予後や増悪の予測因子として重要であり、近年サルコペニアとして注目されている筋蛋白質量の減少がCOPDの生理機能の低下と密接に関連することや、栄養障害のメカニズムとして全身性炎症や内分泌ホルモンの分泌動態などの複合的な要因が関与することを明らかにしました。摂食促進作用や抗炎症作用、蛋白同化作用など多彩な生理活性をもつグレリンの分泌動態を解析し、臨床応用への可能性も検証を行ってきました。さらに、アディポサイトカインであるアディポネクチンの分泌動態が全身性炎症と関連することを明らかにしてきました。骨粗鬆症にも着目し、骨代謝マーカーの変動や高率な骨粗鬆症の合併も立証しました。また、最近多方面で注目されている腸内細菌とその代謝産物の役割にいち早くから着目し、COPDの栄養障害や骨粗鬆症だけでなく肺病変の発症・進展には食習慣の変化がもたらした腸内環境の変化が関与することを明らかにしました。COPD発症に関する喫煙感受性には、従来から提唱されていた先天的要因だけでなく食習慣という後天的要因も重要であることを明らかにし、腸内環境改善を目指した新たな治療法を開発中です。

3)睡眠時無呼吸症候群をはじめとする睡眠呼吸障害のメカニズム、全身に及ぼす影響に関しては、教室のメインテーマとして継続的に研究を積み重ねてきました。閉塞性睡眠時無呼吸症候群(OSAS)は新幹線の居眠り事故以来、生活習慣病の一つとして重要視されてきましたが、私達は、OSAS患者に見られる夜間に繰り返される無呼吸によって生じる間歇的低酸素負荷(IH)が生体に様々な悪影響を及ぼすことを明らかにしました。IHによって全身性炎症が惹起され、単球・マクロファージが血管内皮細胞に集簇し、動脈硬化病変を引き起こすことを見出しました。さらに本学の輸血部と共同でIHが凝固因子であるvon Willebrand factor (VWF)における超高分子量VWF重合体の減少を引き起こし凝固亢進状態に導くことや、生化学教室と共同でIHが細胞増殖・アポトーシス・細胞機能障害を介して膵臓β細胞のインシュリン分泌機能を低下させることも明らかにしました。一方でOSASには個々の呼吸生理学的特性が存在し、この多様性が治療反応性に深く関与することを明らかにしてきました。この多様性に基づくOSASの個別化治療の構築にも精力的に取り組んでいます。

肺は全身を映す鏡であるといわれるように、呼吸器疾患と全身性疾患は相互に関連しあい病態を形成することをPH、COPDとOSASを通じて明らかにしてきました。これらの成果の一部は第55回日本呼吸器学会学術講演会の会長公演で木村が全国に向けて紹介しました。この“呼吸器と全身のクロストーク”が今後さらに解明され、研究成果が実地臨床にフィードバックされることを期待しています。

検索マスターへの道 (第7回)

検索テーマ	川崎病に対するステロイドとインフリキシマブの有効性について
検索日	2016年6月17日

ある疑問に対し、医学情報データベースでどのように検索するのかを解説するシリーズ、今回は「川崎病に対するステロイドとインフリキシマブの有効性」をテーマに検索します。先日、小児科の教育主任の先生よりご依頼いただき、主に研修医の先生方を対象にこのテーマを用いて図書館で文献検索の講義をさせていただきました。内容はPubMedの初級&中級と医中誌の基礎的な使い方についてです。普段からデータベースを使った検索をされている方にはちょっと簡単すぎる内容が多かったと反省もありますが、終始熱心にお聞きいただき、とてもやりがいのある検索講義でした。

では、今回のテーマをさっそく医中誌で検索してみましょう。テーマから「川崎病」、「ステロイド」、「インフリキシマブ」というキーワードが挙げられます。ここで注目いただきたいのが「川崎病」というキーワードです。「川崎病」で検索した結果を確認してみてください。「川崎病」でヒットしているほか、「川崎病」と重なる「川崎病院」というキーワードを含む文献もヒットしています。検索するときには、検索件数だけでなくヒットした文献を確認しないと、思わぬノイズが含まれていることがあります。さて、この場合は「川崎病院」というキーワードをNOT検索で除くことが考えられますが、それでは川崎病院の先生方が書かれた川崎病に関する文献も除いてしまいます。ここはほかのキーワードをかけるなどして、自分の求める検索結果に近づけましょう。「ステロイド」と「インフリキシマブ」をかけると、74件となり、内容も川崎病関連のものに絞り込むことができました。(図1)

#1	<input type="checkbox"/> (川崎病/TH or 川崎病)	27,409
#2	<input type="checkbox"/> (Infliximab/TH or インフリキシマブ)	8,713
#3	<input type="checkbox"/> (Steroids/TH or ステロイド/A)	253,715
#4	<input checked="" type="checkbox"/> #1 and #2 and #3	74

ノイズがたくさん含まれている

ほかのキーワードをかけて求めている文献の集合にする

次にPubMedでも検索してみます。「Kawasaki disease」で検索し、検索結果画面右下 [Search details] から検索式を確認します。(図2)

Search	Add to builder	Query	Items found
#10	Add	Search #5 AND #7 AND #9	18
#9	Add	Search steroids	810027
#7	Add	Search infliximab	10973
#5	Add	Search "mucocutaneous lymph node syndrome"[MeSH Terms] OR "mucocutaneous lymph node syndrome"[All Fields] OR "kawasaki disease"[All Fields]	5889

「Kawasaki disease」が検索されています。特に「"kawasaki" AND "disease"」で検索すると、書誌情報のどこかにこの2つの単語を含むものという意味になり、「カワサキ」病院の文献がヒットするほか、「カワサキ」さんという名前でもヒットしてしまいます。「kawasaki」は珍しい名称ではないので、多くのノイズが含まれることとなります。[Query Translation] 上で式の編集ができるので、単語をANDでつなぎ合わせた式を除いて検索し直すと、3000件以上の差が出ることから、ノイズをたくさん含んでいたことがわかります。

では、「kawasaki disease」の式を編集したもの、「Infliximab」、「steroids」のキーワードを使って検索します。最終的に18件になりました。(図3)

講義では出力の方法で反響があったので出力の方法について触れておきます。検索結果上部の [Send to] をクリックすると、出力方法の選択肢が出てきます。Fileを選択するとテキストファイルとして保存できるため、EndNoteやMendeleyなどの文献管理ツールに保存したいときはファイルをMEDLINE形式でダウンロードして文献管理ツールにインポートしてください。出先で検索しているときはE-mailに送ることもできますし、Clipboardに一時的に文献を集めて、ある程度集まってから一括でダウンロードすることも可能です。

医中誌での出力方法もご紹介します。医中誌には「印刷」、「ダウンロード」、「メール」、「クリップボード」、「ダイレクトエクスポート」の出力方法があります。主なところはPubMedと変わりませんが、「ダイレクトエクスポート」を選択すると、RefWorks、EndNote、MENDELEYといった文献管理ツールに直接エクスポートできます。この機能により、文字化けに悩むことはなくなります。

先日の講義では、「今までこのような方法を知らなかった。この講義を聞いてよかった。」という嬉しいご意見をいただきました。このように、普段からPubMedや医中誌を使われていても意外と知らない役立つ情報が得られることがありますので、文献検索講習をご希望の方はお気軽に図書館までお問い合わせください。人数や時間、講義内容のレベルなど幅広く対応させていただきます。医局や教室での出張講義も可能です。

川崎病のMeSH「mucocutaneous lymph node syndrome」のほか、フレーズ検索とそれぞれの単語をANDで結んだ検索で「mucocutaneous lymph node syndrome」と「kawasaki

同志社女子大学・奈良県立医科大学学術交流に関する包括協定に基づく講演会 「女性の健康支援」を開催しました

6月18日(土)に本学と同志社女子大学との共催による講演会を同志社女子大学今出川キャンパス純正館(じゅんせいがん)において開催しました。

当講演会は同志社女子大学と本学が毎年交互に開催しているもので、今回は「女性の健康支援」をテーマに、管理栄養士の立場から同志社女子大学生生活科学部小切間美保教授(実践栄養学)の「巷に流れる“ダイエット情報”の落とし穴～栄養学の視点から～」に続いて、医師の立場から本学リハビリテーション科城戸顕講師の「骨を守り生命を守る～骨粗鬆症とぜい弱性骨折の少し怖い話～」と題して、それぞれ講演いただきました。

講演会では、栄養学の基本知識や、骨粗鬆症の治療薬の進歩

などまさしく現場での最前線の取り組みなどについて、それぞれの立場から分かりやすく説明をいただきました。

県内外から多数の参加があり、栄養学や骨粗鬆症についての多くの質問がでて、壇上の講演者との活発なやりとりが続くなど有意義な講演会となりました。



講演を行う城戸講師



講演会の模様

クラブ紹介

Club Introduction

「Let's use English and have a fun campus life!」

奈良医大ESS部は男子28人、女子27人の計55人で活動しています。部員の多くは他の部活と兼部していますが、最低週一回は活動に参加して、英語に触れる機会を増やすことを目指しております。

ESS部は昨年までしばらくの間休部の時期が続いていたのですが、昨年度のボルスタッド教授(臨床英語)の着任を契機に新たにからESS部を作ってきました。今年度は初の新生を迎え、大学の英語教育重視の方針にも助けられ、18名の新生を迎えることができ、先日は初の新生歓迎パーティーを執り行いました。

部の活動としては、現在昼休みに弁当を食べながら英語で雑談するDaily、英語を使ったアクティビティを放課後に行うOC、英語の分子生物学のテキストを輪読するMBC、基礎医学の論文を30分のプレゼンにまとめて発表するBMC、7分程度の英語原稿を作って発表するSPEECH、の大きく5本立てで活動しており、さらにDebateやプレゼンなどにも活動の幅を広げていけたらと考えています。また、今年度より西日本医科歯科薬科学学生ESS連盟(WJEMA)へも加盟をし、大会出場など学外との交流も活発になっています。

英語に興味のある方、得意不得意問わず大歓迎です!教養教育棟2階臨床英語ゼミ室にて活動していますので、是非お越しください!



ESS部

- 部員 ▶ 55名
- 顧問 ▶ Francesco Bolstad(臨床英語教授)
- 主将 ▶ 田中俊志(医学科2年)
- 練習日 ▶ 平日昼休み・火曜日放課後

「弓道部!!」

奈良医大弓道部は男子26名、女子29名(内、看護学科12名)で、学内でも有数の大人数のクラブとなっています。部員は初心者が多いので、今まで体育系部活に所属したことのない人も多くいて、先輩たちが弓道の基本を一から教えてくれるので、初心者でも気兼ねなく始めることができ、弓道をするのに特に体力はいらないので、体力に自信のない方でも始めやすいです。

弓道の大会では、1年生の夏から全員が個人戦に出場できます。また一見、個人競技に思える弓道ですが、団体戦の要素も強く、昨年の西日本医科歯科薬科学学生総合体育大会(西医体)では男子の団体が3位入賞しました。また西医体以外の数多くの大会でも優勝を誇っており、看護学科の試合でも上位入賞を収めています。初心者から始めても、大会で活躍することが出来るのが弓道のおもしろさでもあります。

弓道部は大人数で先輩・後輩関係なく仲が良く、とても楽しい部活です。部員でBBQや海、旅行に行ったり、合宿などたくさんイベントがあります。また試合の中で、他大学の弓道部の人たちと交流する機会もたくさんあります。弓道部に少しでも興味がありましたら、是非弓道場にお越しください。



弓道部

- 部員 ▶ 55名
- 顧問 ▶ 吉川公彦(放射線科教授)
- 主将 ▶ 石崎歩(医学科4年)
- 練習日 ▶ 月、水、金

小児科学教室の嶋教授の研究成果がNEJM電子版に掲載されました

小児科学教室の嶋 緑倫教授が中外製薬(株)と共同研究を進めているバイスペシフィック抗体 ACE910 (emicizumab) 第I相臨床試験の血友病 A 患者パートの結果が、世界でもっとも権威ある総合医学雑誌の一つである The New England Journal of Medicine (NEJM) 電子版に日本人の研究者による原著論文としては約1年ぶり、日本人のみによる原著論文としては約4年ぶりに掲載されました。

【掲載内容】

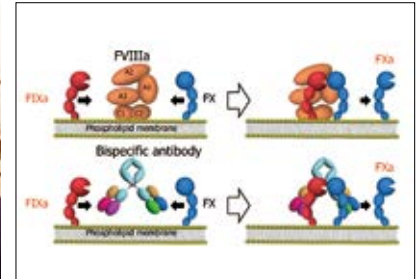
日本人の血友病患者 18 例を対象とした臨床試験の結果から、emicizumab が週 1 回の皮下投与でインヒビターの有無に関係なく血友病患者の出血回数が激減することが判明しました。

本製剤は血友病治療の未解決の課題を克服し、患者さんやご

家族に大きな恩恵をもたらすのみならず血友病の治療概念を根本的に変革するポテンシャルを有する新しい治療選択肢となることが期待されます。



嶋 緑倫教授



emicizumab の作用機序

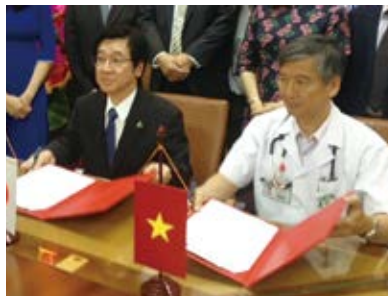
バックマイ病院(ベトナム)と学術、教育及び医療の連携・協力に関する包括交流協定を締結しました

本学とバックマイ病院(ベトナム社会主義共和国ハノイ)は、平成 28 年 4 月 25 日、バックマイ病院において「学術、教育及び医療の連携・協力に関する包括交流協定」を締結いたしました。

従来から、本学 耳鼻咽喉・頭頸部外科学と共同研究を実施している補聴器等のメーカーであるリオン株式会社が独立行政法人国際協力機構(通称: JICA)より「難聴者聴覚検査・診断機器普及促進事業」の採択を受け、当事業の実施にあたり、本学が有する知見・ノウハウについての支援要請があり、本学は、専門医師のベトナム派遣による聴覚検査・診断技術に関する講習及び実習、また、バックマイ病院の医師・検査技師等を本学の医療現場に実習として受け入れを行うことになったため、これを機に交流活動等を通じ、相互理解を促進

するための包括交流協定を締結したものです。

連携する事項は、(1)大学教員、研究者、事務職員の交流、(2)医師、看護師、技師の交流、(3)学生の交流、(4)共同研究の実施、(5)講演およびシンポジウムの実施、(6)学術的情報および資料の交換(7)両組織が合意したその他の協力の促進としています。



協定書を披露する本学細井理事長(左)とバックマイ病院ロイ副院長(グエン院長代理)



パンの販売を開始しました

本学では、障害者就労支援施設で作られた物品の販売会をはじめました。

第 1 弾として、去る 5 月 27 日に附属病院においてパン工房 マツダ、大学講堂においてコッペ高田の手作りパン等を販売しました。同工房では障害のある方が、それぞれの力に応じて役割分担をしながら、菓子パンや焼き菓子、ケーキなどを一つひとつ丁寧に手作りされています。販売会は好評で、準備されていたパンは、あっという間に売り切れました。

本学は、障害者の就労機会の拡大に積極的に取り組み、平成 26 年度から障害者雇用を進めています。現在では、26 名の障害者の皆さんが、附属病院でタオル折りやベットメイクなどの

業務で活躍しています。その働きぶりには、高い評価を得ており、また、障害者理解も進んできたことから、どんどん業務範囲が拡大しています。

この度の販売会は、こうした障害者の就労促進の取り組みの一環です。販売会は、これからも継続的に開催しますので、多くの方々のご利用をお待ちしております。



大学院看護学研究科のオープンキャンパス2016を開催しました

大学院看護学研究科のオープンキャンパスを6月19日に開催しました。平成25年度から開始して今年で4年目になりますが、今年も多くの方にご参加いただき、大盛況に終えることができました。

プログラムとしては、まず「看護学研究科長の挨拶」があり、次のプログラムからは看護学コースと助産学実践コースのコース別に分かれて進行了ました。

看護学コースでは、「概要と特色」、「研究紹介」、「個別相談会」、「先輩との座談会」が行われました。「研究紹介」では、各領域の教員が、それぞれの研究について説明を行い、参加者も真剣な眼差しで説明を聞いていました。「個別相談会」では、参加者が志望する指導教員のもとで研究テーマや履修についての相談が行われました。また、「先輩との座談会」では、参加者から院生に対し、仕事と研究の両立について、入試に関することなどの質問があり、参加者からは『先輩の話を聞いて不安に思っていたことを相談できてよかった』などの感想が寄せられました。

助産学実践コースでは、「概要と特色」、「個別相談会」、「先輩との座談会」、「施設見学」が行われました。「施設見学」では、主な実習先となる附属病院メディカルバースセンターを見

学し、参加者からは『実際に施設を見学し、説明を聞いたことにより、助産師になりたいと強く思った』などの声が聞かれました。「先輩との座談会」では、主に研究や実習についての質問が多く寄せられ、参加者からは『大学院での様子や実習のことなど、先輩からの話が新鮮で分かりやすかった』などの感想が寄せられました。

平成29年度の入学試験は、8月25日(二次募集：12月1日*)に実施されます。学生募集要項(願書)やパンフレットなど大学院看護学研究科に関する資料は、本学大学院看護学研究科担当あてに請求またはお問い合わせください。

※一次募集の結果によって、二次募集を実施しない場合があります。

【問い合わせ先】 教育支援課 看護学研究科担当
0744-22-3051 内線2390・2401



看護学科長挨拶



助産学実践コース「施設見学」

新人看護職員研修を行っています

看護実践・キャリア支援センターでは、平成28年度から看護実践教育の一環として、新人看護職員研修を行っています。昨年まで本学附属病院看護部の教育部門が実施していた内容をベースに厚生労働省が示している新人看護職員研修ガイドラインをふまえて研修内容を整えています。

平成28年度 新人看護職員研修年間計画

開催月	研修内容	開催月	研修内容
4月	入職時研修	6月	コミュニケーション研修 (患者・家族)
	入職時技術研修① (BLS研修)		目標管理
	入職時技術研修② (気管内・口腔内吸引・酸素吸入) (看護師としての基本姿勢・仲間づくり)	7月	看護倫理
	入職時技術研修③ (輸液ポンプ・シリンジポンプ) (静脈注射レベル1) (新人教育支援体制・専門職としての接遇)	8月	スキンケア
9月		急変時対応	
5月	コミュニケーションエラー	10月	看取り期の看護
	ストレスマネジメント	9月	看護記録研修Ⅱ
	看護記録研修Ⅰ	10月	リスクマネジメント
	静脈注射レベル2-1研修 (抗凝固剤を用いたロック)	11月	多重課題
		12月~	看護場面の振り返り
2月	静脈注射レベル2-2 (翼状針・針刺し・切創防止)	2月	ローテーション研修
			振り返り研修

講師は、本学看護学科の先生や、附属病院の専門看護師や認定看護師、時にはロールモデルとなる先輩看護師に依頼し、研修内容が現場で活かせるように工夫しています。新人看護職員研修は、年間123時間におよびます。研修日は職場を離れて新人看護職員が集い、学ぶよい機会となっています。5月には「ストレスマネジメント」をテーマに研修を実施しました。入職後のストレスの高い時期に仲間と思いを共有したり、対処方法の一つとしてヨガストレッチ演習をすることで、自分なりのコーピング方法を見つけ対処行動を知っておく大切さを学べたようです。



ヨガストレッチ演習の様子

新入生オリエンテーションを行いました

医学科では115名、看護学科では89名の新入生（編入生を含む）を対象に、4月5日から6日にかけて先生方による講話、授業や学生生活に関するガイダンスを行いました。

なお、医学科、看護学科とも昨年度まで実施していました1泊2日の課外研修は今年度からカリキュラムとの関係で取り止めとなりましたが、医学科では8日に、看護学科では5日のガイダンス終了後に新入生交流会を開催し、学生は各グループに分かれて自己紹介を行うとともに先輩・後輩との交流を深めました。



医学科



看護学科

医学科看護学科とも、新入生同士そして先輩との交流が深まり、新しい生活に向けて充実した時間を過ごせたのではないかと思います。

「平成28年熊本地震」の義援金を寄附しました

このたびの熊本地震により被災された皆さま方に、心よりお見舞い申し上げます。

本学は、平成28年熊本地震において被災された方々を支援するため、教職員・学生、附属病院来院者等から義援金を募りました。ご協力をいただいた皆さまに感謝申し上げます。義援金は総額1,623,485円集まり、6月23日に日本赤十字社奈良県支部に寄附いたしました。全額が被災された皆さまに届けられます。

本学職員一同、被災地の一日も早い復興を祈念しています。



支部長（左）に義援金を贈呈する本学細井理事長（右）



附属病院に設置された募金箱

奈良医大内に初めて期日前投票所が設置されました

6月29日、第24回参議院通常選挙において奈良医大内に期日前投票所が設置されました。奈良医大内に期日前投票所が設置されたのは初めてのことで、また今回の選挙から18歳、19歳も投票可能となりました。当日は本学学生や職員、近隣住民の方など約100名の投票がありました。



投票に参加する本学学生



大講堂前

平成28年度厳樞学術奨励賞の表彰式が行われました

6月18日(土)、厳樞会館3階大ホールで開催された奈良県立医科大学医学部医学科同窓会総会において、平成28年度厳樞学術奨励賞の表彰式が行われました。

今回の受賞者は、整形外科科学教室の塚本真治医員で、同窓会会長・小味淵智雄氏より、賞状と副賞の海外留学助成金が授与されました。塚本医員は、平成28年8月1日～平成29年7月31日まで、日本においては、症例数も少なく研究の遅れている骨軟部腫瘍について、世界でも有名な骨軟部腫瘍の病院であるイタリアのISTITUTO ORTOPEDICO RIZZOLI (IOR) で臨床研究を行われる予定です。

この賞は、奈良県立医科大学医学部医学科同窓会が、その目的たる母校の発展の一助とするため、海外において学術の研究、調査等に従事する者に対し、その費用の一部を海外留学助成金として支給しているものです。毎年、各所属に応募要項を案内していますので、積極的なご応募をお待ちしています。



左：小味淵会長 右：塚本医員

第23回中島佐一学術研究奨励賞の授賞式を開催しました

7月5日(火)、臨床第一講義室において、第23回中島佐一学術研究奨励賞の授賞式が行われました。

今回の受賞者は、県立医大医師派遣センター 兼 地域医療学講座(小児科学)の矢田弘史特任助教、分子病理学の笹平智則講師の2名で、受賞者にはそれぞれ賞状、記念品の楯及び研究奨励金が授与されました。

引き続き実施された受賞者講演会では、受賞研究テーマに沿って、矢田特任助教が「インヒビター保有血友病Aの病態解明と新規治療戦略確立に関する研究」、笹平講師が「頭頸部癌の血管・リンパ管新生因子としてのMIA gene familyの役割」と題して講演されました。

この賞は、故中島佐一名誉教授のご遺族からの寄附金を財源と

して、医学の学術研究に優れた業績をあげた本学の若手教員に対して授与し、さらなる研究の発展を奨励することを目的としています。

毎年、各所属に応募要項を案内していますので、若手教員の積極的なご応募をお待ちしています。



前列：左より矢田特任助教、細井学長、笹平講師
後列：左より推薦者の赤井教授(地域医療学講座)、嶋教授、國安教授

第5回奈良県立医科大学女性研究者学術研究奨励賞について

優れた研究成果を挙げた本学の女性研究者を顕彰し、将来の学術研究を担う優秀な女性研究者の育成及び男女共同参画の促進等に資することを目的として、平成23年度に創設された「奈良県立医科大学女性研究者学術研究奨励賞」については、今年度の受賞者を3月17日に開催した選考委員会で皮膚科学講座の宮川史講師に決定しました。

7月5日に臨床第一講義室で表彰式及び記念講演会を実施し、賞状、賞金及び記念品が授与されました。授賞式の後、宮川講師から「CD8 T細胞免疫からみた皮膚疾患の病態解明」と題した記念講演が行われました。



左より推薦者の浅田教授、受賞された宮川講師、細井学長

叙勲受章者のお知らせ～心からお祝い申し上げます～

叙勲は、国家又は公共のために功労のあった方を対象に授与されています。

平成28年4月29日に平成28年春の受章者の発令があり前看護部長の大名美記子氏が受章されました。心からお祝い申し上げます。

◆ 瑞宝単光章 大名 美記子 氏(前看護部長)

特別共同研究助成事業及び若手研究者研究助成事業が採択されました

本学の研究の一層の推進を目指して行われている特別共同研究助成事業・若手研究者研究助成事業について、今年度は下記の事業が採択されました。

特別共同研究助成事業には 11 件の応募があり、小児科学の

嶋教授と免疫学の伊藤教授が代表研究者である共同研究が採択され、それぞれ 500 万円が助成されます。

また、若手研究者助成事業には 18 件の応募があり、下記の 10 名が採択され、それぞれ 50 万円が助成されます。

特別共同研究助成 採択者一覧

所属名	職	氏名	研究課題名	共同研究者
小児科学	教授	嶋 緑倫	包括的凝固線溶ダイナミックス解析を基盤とする播種性血管内凝固(DIC)の新規診断法の確立に関する探索的研究	内科学第二:木村教授、救急医学:奥地教授、産婦人科学:小林教授、総合診療学:西尾教授、臨床研究センター:笠原研究教授、麻酔科学:川口教授、NICU:西久保病院教授、小児科学:野上准教授・石原助教、血友病治療・病解析学講座:松本特任助教
免疫学	教授	伊藤 利洋	インフルエンザ重症化の病態解明	微生物感染症学:矢野教授、感染症センター:三笠教授、笠原准教授、免疫学:北畠講師

若手研究者研究助成 採択者一覧

所属名	職	氏名	研究課題名
眼科学	講師	丸岡 真治	ドライアイにおける樹状細胞の関与
看護学科成人看護学	助教	榊 裕美	開心術後患者のDVT予防用医療機器使用における看護師の皮膚障害予防行為に影響する要因の検討
耳鼻咽喉・頭頸部外科学	診療助教	木村 隆浩	頭頸部癌におけるヘリコバクター・ピロリ感染による癌浸潤・転移機構の解明
糖尿病学	助教	岡田 定規	2型糖尿病患者における糖尿病病態の変化と動脈硬化性疾患発症に関する研究
内科学第一	診療助教	上田 友哉	24時間血圧管理パターンが心不全の予後に及ぼす影響に関する研究
生理学第二	助教	柏木 克信	TETタンパク質による発がん防御機構の解析
放射線医学	医員	立元 将太	ガドキセト酸ナトリウム造影MRIを用いた大腸癌化学療法感受性予測と治療戦略構築
泌尿器科学	学内講師	穴井 智	尿検体による光力学診断を応用した去勢抵抗性前立腺癌の治療効果予測法の確立
生化学	助教	山内 晶世	膵β細胞再生増殖因子REGとHGFの発現機構とアポトーシスにおける役割の解明
総合周産期母子医療センター 新生児集中治療部門	助教	釜本 智之	トロンピン/トロンボモジュリン/プロテインC・プロテインS血液凝固制御軸から見た新生児慢性肺疾患の病態解明

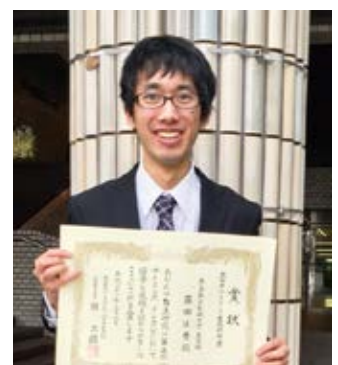
第5回サイエンス・インカレにおいてTasly生命科学賞を受賞しました

医学部医学科5年 藤田 匡秀

この度、第5回サイエンス・インカレ(文部科学省主催)において「心血管系の発生・形態形成におけるHrt/Hey転写調節因子の意義:新しい先天性心疾患モデルの同定と解析」というタイトルで発表させていただき、生物系口頭発表部門でTasly生命科学賞を受賞いたしました。国立循環器病研究センター分子生理部長の中川修先生をはじめ、多くの先生方にご指導いただきました。

サイエンス・インカレは、医学に限らず工業や農業など様々な

分野で自主研究をしている学生が発表する大会です。この大会を通じて、医学を学んでいる立場を再認識したと同時に、疾患の治療を目標とする研究をしたいと感じました。このことを忘れず、今後の臨床での活動を続けていきたいと考えております。



平成27年度TBL Best Teacher表彰式を行いました

本学では、医学科学生に対し、履修内容を効果的に理解させるための教育手法として、双方向性授業の導入のための手法TBL (Team-Based Learning) を以前より導入してきました。

昨年度のTBLでは、基礎医学Ⅰ(医学科2年生)、基礎医学Ⅱ(医学科3年生)、臨床医学(医学科5年生)において行い、各講

座・教室で設定したテーマで学習しました。

講義後、学生にアンケートを実施し、「一番興味を持ったTBL」に選ばれた担当教員がBest Teacherとして細井学長より表彰されました。



左より 藤本教授 堀江教授 辰巳助教 細井学長 山田講師 美登路准教授

基礎医学Ⅰ TBL Best Teacher 1名

生理学第二 堀江 恭二 教授

基礎医学Ⅱ TBL Best Teacher 1名

病理病態学 辰巳 佳弘 助教

臨床医学 TBL Best Teacher 2名

内科学第三 美登路 昭 准教授

消化器・総合外科学 山田 高嗣 講師

看護功労者知事表彰

平成28年5月12日に、看護功労者知事表彰を受賞いたしました。

受賞するにあたり、本学附属病院からご推薦をいただきましたことに深く感謝いたします。こうして私たちが看護職員として勤務が続けられるのは病院で働く多くの皆さま方のお力添えやご支援を頂いているおかげです。これからも今までの経験を活かしながらそれぞれの役割を通して組織に貢献できるように努力してまいります。

今後とも、ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



錦三恵子看護副部長 高橋美雪看護部長 八木尚美看護副部長

31st Annual Congress of the European Association of Urology 2016 においてThe Best Poster 賞を受賞しました

泌尿器科学 助教 三宅 牧人

このたび、ドイツのミュンヘンで行われた第31回欧州泌尿器科学会におきまして、The Best Poster 賞を受賞いたしました。受賞演題は、「CXCL1 signaling is a crucial mediator between cancer cells and tumor-associated macrophages/cancer-associated fibroblasts for tumor invasion and progression in microenvironment of human bladder cancer」であり、当科の中心的テーマである膀胱癌の微小環境に着目した研究です。癌細胞とその周囲にある間質細胞(マクロファージ、線維芽細胞)の間をとりもつシグナル伝達物質としてのケモカインCXCL1の重要性を示したものです。

癌微小環境を標的とした新しい治療や診断法の開発、臨床応用に向けて貢献できるよう今後も精進していければと思います。



第23回日本泌尿器科学会学会賞(臨床部門)を受賞しました

泌尿器科学 助教 三宅 牧人

このたび、宮城県仙台市で行われた日本泌尿器科学会総会におきまして、第23回学会賞(臨床部門)を受賞いたしました。受賞論文は、「Diagnostic approach for cancer cells in urine sediments by 5-aminolevulinic acid-based photodynamic detection in bladder cancer (Cancer Science 2014; 105: 616-22)」であり、多くの方のご協力があり成し遂げることができた思い出深い仕事のひとつです。本研究の遂行にあたり、ご指導、ご支援いただきました皆様方に厚く御礼申し上げます。アミノレブリン酸を利用した蛍光尿細胞診が、従来の尿検査ではとらえられないような膀胱癌の症例でも、高い診断精度を

示したことは臨床上極めて重要です。現在、さらに高精度ハイスループット解析を実現する改良型自動解析デバイスを開発中であり、臨床への導入および普及を目指しています。本受賞を励みとして、今後も歩みをとめることなく、まだ見ぬゴールに向かい邁進していく所存です。

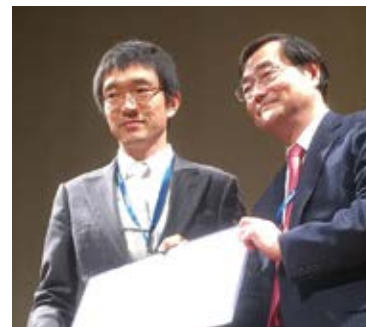


第59回関西胸部外科学会学術集会以Young Investigator Awardを受賞しました

胸部・心臓血管外科 助教 河合 紀和

平成28年6月16日～17日に三重県津市で開催された第59回関西胸部外科学会学術集会上において、「呼吸器外科領域におけるゼラチン糊の有効性の検討」の研究題目につきYoung Investigator Awardを受賞いたしました。本研究は、ゼラチンを主成分としたbiomaterial(新規外科用接着剤)の呼吸器外科領域での応用について、動物実験モデルを用いてその効果を検討した研究です。これまでにご指導いただきました谷口教授は

じめ、日々実験に協力していただきました多くの皆様の御蔭です。この場をお借りして深く御礼申し上げます。今後も研究に励み、臨床につなげていけるように精進したいと思います。



第43回日本膵・膵島移植研究会において、伊藤壽記会長(大阪大学教授)より、山田高嗣講師に学会賞が授与されました

消化器・総合外科学 講師 山田 高嗣

このたび日本膵・膵島移植研究会という歴史ある学会で、『リプログラミング技術を用いた新たな膵島の臓器再生誘導システムの開発』という演題で、たいへん栄誉ある学会賞をいただきました。私たちはこれまで、ES細胞やiPS細胞を用いて人工腸管を立体臓器として作製する再生医療の研究を国内外に先駆けて行ってきました。今回の研究は、私がハーバード大学医

学部留学中に、iPS細胞を用いずに、既存の膵臓の細胞を用いて特定の細胞にDirectにリプログラムさせようという発想のもと、ハーバード・ステムセル研究所と共同で行ったものです。この技術が糖尿病治療のブレークスルーになることを期待しております。



平成28年度(第1回)若手研究者国際学会発表助成事業 助成者決定

平成28年度(第1回)若手研究者国際学会発表助成事業の助成者は、右記の3名の方々に決定しました。

この事業は、若手研究者の国際学会等での発表の機会を増大させ、国際的に活躍できる人材の育成を推進することにより本学における研究活動の一層の活性化を図るため、10万円を上限とし往復運賃相当額及び宿泊費相当額を助成しているものです。

年3回各所属に応募要項を案内しますので、積極的なご応募をお待ちしています。

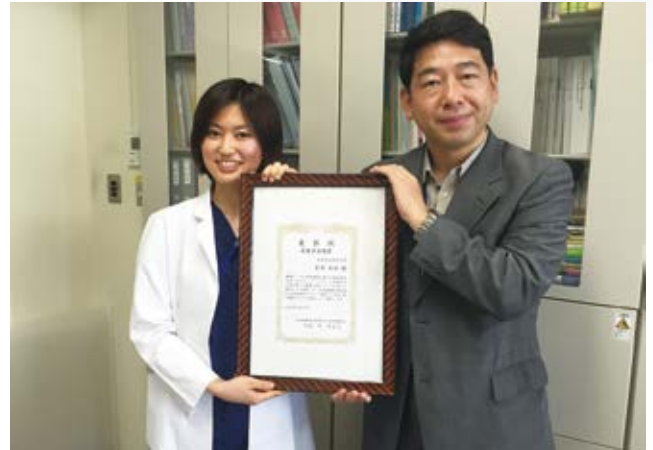
所属	職名	氏名
健康政策医学	大学院生	岸本 美和
リウマチセンター	診療助教	藤村 貴則
微生物感染症学	講師	中野 竜一

日本麻酔科学会で最優秀演題を受賞しました

健康政策医学 大学院博士課程 2年
麻酔科学教室 医員 岸本 美和

先日、福岡で行われた第63回日本麻酔科学会総会で発表した演題「人工呼吸管理を要する重症肺炎患者に対するシベレスタット早期投与と死亡率との関連：DPCデータを用いた傾向スコア研究」が最優秀演題を受賞しましたため、この場をお借りしてご報告いたします。大規模データであるDPCデータを用いて、人工呼吸管理された重症肺炎患者における、ARDS（急性呼吸促拍症候群）治療薬シベレスタットの使用と、死亡率との関連を検討しました。本研究は、奈良医大健康政策医学講座、麻酔科学教室、そして東京大学医学部大学院臨床疫学・経済学講座の共同研究で、関係する多くの先生方にサポートしていただき、今回受賞することができました。この場をお借りして深くお礼申し上げます。今回の受賞を励みに、今後益々、臨床、研究に精進していく所存です。まだ研究者としても、臨床医としても未熟な私です

が、皆さまの今後のご指導、ご鞭撻を何卒よろしくお願い申し上げます。



第70回日本口腔科学会学術集会で学会賞優秀ポスター賞を受賞しました

口腔外科学講座 今田 光彦

この度、平成28年4月16～17日福岡県で開催された第70回日本口腔科学会学術集会で発表した演題「顎顔面領域における骨形成細胞シートの骨形成能の検討」が、「日本口腔科学会学会賞優秀ポスター賞」を受賞しました。本学会の歴史は長く、口腔科学に関する基礎的・臨床的研究の発表の場として広く認知されております。この研究は、骨髄由来間葉系幹細胞から細胞シートを作製し、顎顔面領域の骨欠損を想定したモデルにおいて骨再生能を評価したもので、複雑な形態を示す顎骨欠損に対し、この細胞シートは有用な移植材料となる可能性を示すことが出来ました。

本研究の発表に当たり、多くのご指導を賜りました口腔外科学講座桐田忠昭教授、柳生貴裕助教、上山善弘先生、また細胞シート作製に関し貴重なご助言とご支援を頂戴しました整形外科学講座田中康仁教授、健康政策医学講座赤羽学准教授に心より感謝申し上げます。



第70回日本口腔科学会学術集会で学会賞優秀ポスター賞を受賞しました

口腔外科学講座 河上 真緒

平成28年4月16日～17日に福岡県福岡市で開催された第70回日本口腔科学会学術集会において「新規経口抗凝固薬服用患者の抜歯後出血に関する後ろ向きコホート研究」のポスター発表を行い、学会賞優秀ポスター賞を頂きました。この研究は新規経口抗凝固薬（NOACs）服用患者の抜歯をより安全な方法で行うため、当科での症例を検討したものです。NOACs服用患者の抜歯に関してはまだ症例数も少なく、確立された方法がありません。更なる研究を進め、臨床に生かしていけるよ

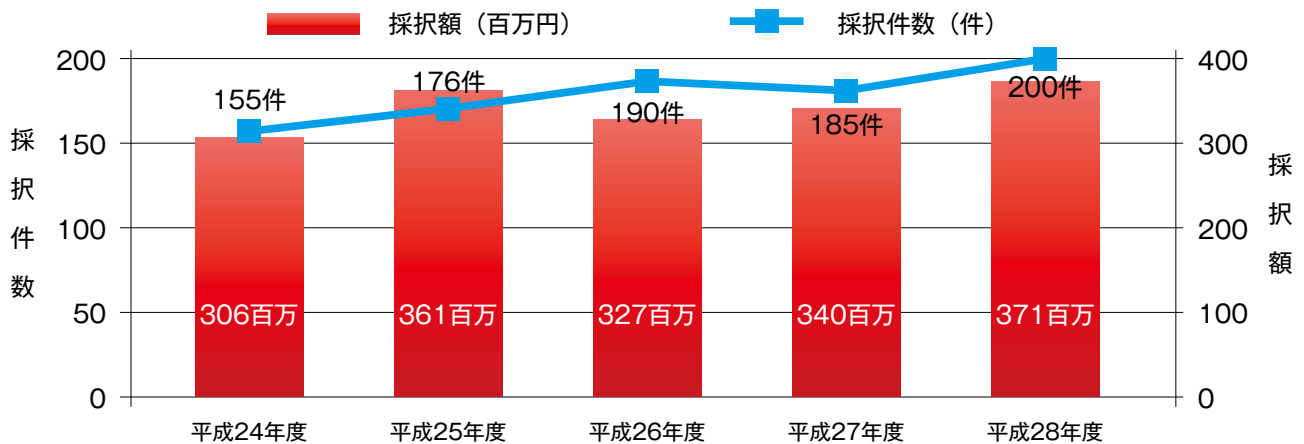
う頑張ります。桐田忠昭教授、柳生貴裕助教をはじめご指導を賜りました多くの皆様に、この場をお借りして深く御礼申し上げます。今後も、これを励みに、研鑽を積んでいきたいと思っております。



平成28年度 文部科学省科学研究費助成事業の決定

平成28年度 科学研究費助成事業(科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金(文部科学省、独立行政法人日本学術振興会))が決定しました。平成28年5月1日現在の状況は表のとおりです。

	採択件数(件)	採択額(千円)	直接経費	間接経費
平成28年度	200	371,033	285,710	85,323
平成27年度	185	340,304	262,184	78,120
平成26年度	190	327,390	252,300	75,090
平成25年度	176	361,350	289,900	71,450
平成24年度	155	306,150	235,500	70,650



平成28年度 文部科学省科学研究費助成事業(科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金)一覧

事業名	教室名	職名	氏名	研究課題名	研究期間
新学術領域研究(研究領域提案型)	脳神経システム医科学	教授	坪井 昭夫	成体神経新生を利用した障害脳神経回路の機能的再建	27～28
基盤研究(B)	整形外科	博士研究員	高木 都	刺激に応答して光る腸管神経の再生・新生機構の解明と制御の新たな展開	27～29
基盤研究(B)	第一解剖学	教授	西 真弓	母子分離記憶の痕跡の可視化と成体での再活性化による想起	27～29
基盤研究(B)	地域健康医学	助教	大林 賢史	光曝露がサーカディアンリズム関連疾患に及ぼす影響に関する縦断研究	27～30
基盤研究(B)		医学部長	車谷 典男	青年・壮年・中年期の光曝露が生体リズムと睡眠の質に及ぼす影響に関する疫学研究	27～30
基盤研究(B)	放射線腫瘍医学	教授	長谷川 正俊	神経系腫瘍幹細胞を標的とした重粒子線と抗 VEGF 抗体併用の有効性	27～29
基盤研究(B)	在宅看護学	教授	小竹 久美子	全咽頭摘出者の心理的適応促進のための RCT 看護介入効果検証	27～30
基盤研究(B)	R I 実験施設	研究教授	森 俊雄	DNA 損傷特異抗体を損傷除去修復薬に進化させる	28～30
基盤研究(B)	脳神経システム医科学	教授	坪井 昭夫	成体新生ニューロンによる神経活動依存的な回路再編機構とその生理的意義の解明	28～30
基盤研究(B)	第二生理学	教授	堀江 恭二	マウス ES 細胞の未分化状態の解明と他種 ES/iPS 細胞の初期化への応用	28～30
基盤研究(B)	分子病理学	教授	國安 弘基	Claudin-4 標的抗体によるがん治療法確立の基盤研究	28～31
基盤研究(B)	第一内科学	教授	斎藤 能彦	Fit-1 系を介する心腎連関分子機構の解明: 新規 LncRNA の関与	28～30
基盤研究(B)	免疫学	教授	伊藤 利洋	呼吸器感染症がもたらす慢性呼吸器疾患増悪の分子基盤の解明	28～31
基盤研究(B)	精神医学	講師	牧之段 学	自閉スペクトラム症における前頭前野機能の多面的解析とその正常化への試み	28～31
基盤研究(B)	消化器・総合外科学	講師	山田 高嗣	膵島の生体内リプログラミング技術を用いた糖尿病の新規治療法の開発	28～30
基盤研究(B)	病原体・感染防御医学	教授	吉川 正英	多能性幹細胞を用いた内耳有毛細胞の創生から細胞移植治療へ	28～31
基盤研究(B)	第二解剖学	教授	和中 明生	淡蒼球アストロサイトの形態機能連関-パーキンソン病の新しい治療法開発にむけて-	26～28
基盤研究(B)	病理病態学	教授	小西 登	ヒト前立腺癌癌原細胞を用いた腫瘍進展メカニズムの解析と新規分子標的治療への応用	26～28
基盤研究(B)	産婦人科学	教授	小林 浩	胎児期子宮内膜症発生説の実証と癌化機序の解明	26～28
基盤研究(C)	成人看護学	講師	石橋 千夏	クローン病患者のセルフマネジメントの実態に基づく患者教育プログラムの検討	24～28
基盤研究(C)	麻酔科学	学内講師	林 浩伸	心臓血管手術中におけるレーザースペックル法による眼血流測定と術後視機能障害の検討	25～28
基盤研究(C)	公衆衛生看護学	准教授	入江 安子	妊婦の心理・社会環境要因と産後うつ・子どもの発達の問題さとの関連 コホート研究	25～29
基盤研究(C)	動物実験施設	准教授	久保 薫	シンバイオテイクスによる慢性関節リウマチの予防・治療に関する研究	26～28
基盤研究(C)	保健体育	教育教授	石指 宏通	運動強度・時間・脱水量と血栓形成発生機序の関連性およびそれに及ぼす老化の影響	26～28
基盤研究(C)	第一生理学	教授	齋藤 康彦	垂直眼球運動系の神経積分器における持続的活動の生成機序	26～28
基盤研究(C)	生物学	博士研究員	荒木 正介	網膜再生の両生類モデルを用いた幹細胞性の維持と細胞分化の機構	26～28
基盤研究(C)	第一生理学	准教授	豊田 ふみよ	イモリ性フェロモン情報処理機構の解明	26～28
基盤研究(C)	産学官連携推進センター	研究教授	仲川 孝彦	腎糸球体ポドサイトでのミトコンドリア細胞内分布の意義	26～28

基盤研究 (C)	薬理学	教授	吉 栖 正 典	伸展負荷による血管平滑筋細胞死の分子機構の解明と全く新しい大動脈解離予防薬の開発	26 ~ 28
基盤研究 (C)	分子病理学	博士研究員	大 森 齊	脂肪酸シグナルを標的とする癌幹細胞ターゲティングの検討	26 ~ 28
基盤研究 (C)	病理病態学	博士研究員	島 田 啓 司	尿路上皮癌における新規進展メカニズムの解析	26 ~ 28
基盤研究 (C)	健康政策医学	学内講師	岡本 左和子	患者の医療リスクの理解と納得のための要因と行動変容までのプロセスに関する研究	26 ~ 28
基盤研究 (C)	第三内科学	教授	吉 治 仁 志	肝前駆細胞と既存薬剤を用いた肝疾患進展抑制治療法の開発	26 ~ 28
基盤研究 (C)	第三内科学	医員	野 口 隆 一	NASH の発症進展に関わる生活習慣病態と凝固線溶系を標的とした新規治療の確立	26 ~ 28
基盤研究 (C)	第一内科学	助教	尾 上 健 児	メッセンジャー RNA 投与による新たな心筋症治療法の開発と評価	26 ~ 28
基盤研究 (C)	薬理学	准教授	小 澤 健 太 郎	パーキンソン病の関連タンパク質に対する酸化修飾のパーキンソン病発症における役割	26 ~ 29
基盤研究 (C)	小児科学	助教	武 山 雅 博	APC 及び PS による第 VIII 因子制御機構の解明及び新規血友病 A 治療薬の開発	26 ~ 28
基盤研究 (C)	小児科学	助教	志 田 泰 明	血管内皮細胞による血流応答機構の解明および新規血栓止血制御戦略の構築	26 ~ 28
基盤研究 (C)	総合周産期母子医療センター 新生児集中治療部門 (NICU)	博士研究員	高 橋 幸 博	低酸素性虚血性脳症に対する新規トロンボモジュリンによる脳保護作用の解明	26 ~ 28
基盤研究 (C)	皮膚科学	教授	浅 田 秀 夫	ウイルス由来ケモカイン受容体に着目した DHS における HHV 6 再活性化機序の解明	26 ~ 28
基盤研究 (C)	放射線医学	助教	西 尾 福 英 之	MRI 分子画像を用いた nano DDS による体内動態の解明から治療効果早期診断への応用	26 ~ 28
基盤研究 (C)	放射線医学	非常勤講師	阪 口 浩	進行肝細胞癌に対する薬剤溶出性ビーズを用いた新規肝動脈塞栓術の開発	26 ~ 28
基盤研究 (C)	救急医学	非常勤講師	藤 岡 政 行	クモ膜下出血後の遅発性脳虚血に対する ADAMTS13 の新規脳保護機能の解明	26 ~ 28
基盤研究 (C)	脳神経外科学	教授	中 瀬 裕 之	悪性神経膠腫に対する抗てんかん薬を中心とする新規併用療法の開発と臨床応用	26 ~ 28
基盤研究 (C)	手の外科講座	教授	面 川 庄 平	骨形成細胞シートを併用した骨延長術の有用性に関する実験的研究	26 ~ 28
基盤研究 (C)	麻酔科学	講師	瓦 口 至 孝	全身麻酔薬が糖尿病環境下にある癌細胞の増殖能に与える影響	26 ~ 28
基盤研究 (C)	麻酔科学	教授	川 口 昌 彦	非眼科的手術後の眼合併症の発生状況とその誘因に関する検討	26 ~ 28
基盤研究 (C)	分子病理学	博士研究員	千 原 良 友	膀胱内環境に生じるがん幹細胞シグナル異常の解明と膀胱癌診断マーカーの開発	26 ~ 28
基盤研究 (C)	病理病態学	講師	藤 井 智 美	ヒト前立腺癌に発現する特異性の高い microRNA の有用性についての検討	26 ~ 28
基盤研究 (C)	産婦人科学	助教	棚 瀬 康 仁	癌幹細胞マーカー CD44v9 を標的とした難治性卵巣がんの治療戦略	26 ~ 28
基盤研究 (C)	産婦人科学	博士研究員	古 川 直 人	卵巣明細胞癌に対する新たな転写因子・セリンプロテアーゼ系マーカーの有用性	26 ~ 28
基盤研究 (C)	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	学内講師	西 村 忠 己	軟骨伝導補聴器の音伝導効率の向上に関する研究	26 ~ 28
基盤研究 (C)	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	講師	太 田 一 郎	頭頸部癌における糖代謝異常と EMT シグナル活性化に伴う癌浸潤・転移機構の解明	26 ~ 28
基盤研究 (C)	集中治療部	病院教授	井 上 聡 己	脳蘇生におけるアミオダロンの脳保護効果に関する研究	26 ~ 29
基盤研究 (C)	分子病理学	講師	笹 平 智 則	新規口腔癌関連遺伝子による新たな血管・リンパ管新生機構の解明	26 ~ 28
基盤研究 (C)	口腔外科学	博士研究員	村 上 和 宏	即時・早期荷重インプラントの骨結合獲得のための微小動揺の閾値と荷重開始時期の解明	26 ~ 28
基盤研究 (C)	口腔外科学	博士研究員	梶 原 淳 久	BRCA2 の DSB を介した温熱誘導細胞死における修復経路の選択機構の解明	26 ~ 28
基盤研究 (C)	整形外科	講師	城 戸 顕	筋再生の分子機構を指標とした骨転移患者に対する安全で効果的なリハビリテーション	27 ~ 29
基盤研究 (C)	哲学	准教授	池 辺 寧	医学哲学を構築するための基礎づけとなるハイデガーの行為概念についての研究	27 ~ 29
基盤研究 (C)	第一解剖学	学内講師	東 超	幼年期のストレスによる記憶・学習障害と亜鉛の抗酸化作用に関する研究	27 ~ 29
基盤研究 (C)	脳神経システム医科学	助教	高 橋 弘 雄	新生嗅球介在ニューロンによる嗅覚行動の制御機構の解析	27 ~ 29
基盤研究 (C)	第二解剖学	准教授	辰 巳 晃 子	光遺伝学を用いたアストロサイト機能改変-基底核回路の人為的制御の実現に向けて	27 ~ 29
基盤研究 (C)	第三内科学	講師	浪 崎 正	原発性肝細胞癌に対する薬物動態に基づく新規治療法および新規バイオマーカーの開発	27 ~ 29
基盤研究 (C)	眼科学	准教授	上 田 哲 生	白内障重症度が非視覚的光感受性に及ぼす影響：1100 名の高齢者調査	27 ~ 29
基盤研究 (C)	免疫学	助教	王 寺 典 子 (下嶋 典子)	HLA-F による新規腫瘍病理診断法の開発	27 ~ 29
基盤研究 (C)	健康政策医学	准教授	赤 羽 学	超高齢社会における社会政策のための医療・介護サービス需要の高精度推計	27 ~ 29
基盤研究 (C)	地域健康医学	准教授	岡 本 希	地域在住高齢者における歯周病と認知機能障害発生のリスクとの関連	27 ~ 29
基盤研究 (C)	第一内科学	助教	岡 山 悟 志	循環器疾患患者の終末期医療に関する意思決定を支援する体制を構築するための研究	27 ~ 29
基盤研究 (C)	中央臨床検査部	講師	水 野 麗 子	三次元右室分割モデルを用いた三次元的右室部位別心機能評価のための新手法の開発	27 ~ 29
基盤研究 (C)	医療安全推進室	准教授	友 田 恒 一	肺の気腫化と線維化はなぜ均等に起こらないのか？：力学的異方性からのアプローチ	27 ~ 29
基盤研究 (C)	神経内科学	講師	形 岡 博 史	パーキンソン病とサーカディアンリズムに関する大規模調査	27 ~ 29
基盤研究 (C)	免疫学	講師	北 畠 正 大	脱リン酸化調節分子 G5PR による自己抗体産生細胞の分化制御機構の解明	27 ~ 29
基盤研究 (C)	感染症センター	准教授	笠 原 敬	黄色ブドウ球菌菌血症の疫学の変遷と最適な治療法の解明	27 ~ 29
基盤研究 (C)	血拴制御医学講座	講師	松 井 英 人	ウイルスベクターを使用しない安全な血友病遺伝子・細胞治療法の確立	27 ~ 29
基盤研究 (C)	小児科学	准教授	野 上 恵 嗣	凝固第 VIII 因子活性化・不活化機構の解明と新規凝固・抗凝固薬の応用に関する基礎的研究	27 ~ 29
基盤研究 (C)	県立医大医師派遣センター	特任助教	矢 田 弘 史	インヒビター保有軽症血友病 A の凝血学的特性と新規治療戦略に関する基礎的研究	27 ~ 29
基盤研究 (C)	皮膚科学	講師	宮 川 史	核成分に対する免疫寛容の破壊から SLE 発症に至る機序の解明	27 ~ 29
基盤研究 (C)	精神医学	准教授	安 野 史 彦	脳梗塞患者でのアルツハイマー型認知症の発症リスクに関する PET アミロイド画像研究	27 ~ 29
基盤研究 (C)	放射線医学	准教授	田 中 利 洋	脾癌 I/R 治療における新規デバイスと治療法の開発	27 ~ 29
基盤研究 (C)	放射線医学	教授	吉 川 公 彦	下肢閉塞性動脈硬化症に対する新規生体吸収型バイオスタントの開発	27 ~ 29
基盤研究 (C)	消化器・総合外科学	准教授	庄 雅 之	難治性消化器癌に対する新たな集学的免疫治療戦略の開発	27 ~ 29
基盤研究 (C)	消化器・総合外科学	学内講師	若 月 幸 平	フィブリノーゲンによる癌の転移メカニズムの解明と新規癌治療への応用	27 ~ 29
基盤研究 (C)	消化器・総合外科学	助教	植 田 剛	多能性幹細胞からの誘導腸管を用いた、生体内長期培養による腸管移植への試み	27 ~ 29
基盤研究 (C)	中央内視鏡部	病院教授	小 山 文 一	抗酸化作用を強化した十全大補湯を用いた放射線性腸炎を予防する	27 ~ 29
基盤研究 (C)	整形外科	教授	田 中 康 仁	重症脊髄損傷に対する自家組織細胞シートを用いた新規再生医療技術の開発	27 ~ 30

平成28年度 文部科学省科学研究費助成事業の決定

基盤研究 (C)	整形外科学	准教授	朴木 寛弥	Translational applications of broad spectrum natural compounds and phytochemicals or their derivatives to the novel treatment strategy against sarcomas	27 ~ 30
基盤研究 (C)	泌尿器科学	教授	藤本 清秀	分子生物学プロファイリングによる膀胱上皮内癌治療効果と予後予測マーカーの探索	27 ~ 29
基盤研究 (C)	総合周産期母子医療センター 母体・胎児集中治療部門 (MFICU)	助教	赤坂 珠理晃	妊娠高血圧症候群の病態悪化に関わる脂肪組織の影響～新規培養法を用いた証明	27 ~ 29
基盤研究 (C)	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	博士研究員	岡本 英之	頭頸部癌におけるバイオマーカーとしての REG 遺伝子の作用機序の解明	27 ~ 29
基盤研究 (C)	眼科学	教授	緒方 奈保子	高齢者の視機能が QOL に及ぼす影響と加齢黄斑変性の病態解明	27 ~ 29
基盤研究 (C)	総合医療学	教授	西尾 健治	肝臓・腎臓における各種炎症病態形成への ADAMTS13 の関与	27 ~ 29
基盤研究 (C)	口腔外科学	博士研究員	杉浦 勉	即時荷重インプラントの骨界面における荷重伝達とオーバーロードの閾値の解明	27 ~ 29
基盤研究 (C)	口腔外科学	教授	桐田 忠昭	口腔癌細胞における酸素中性子捕捉療法による転移・浸潤能の抑制効果の検討	27 ~ 29
基盤研究 (C)	口腔外科学	准教授	山本 一彦	長鎖 non-codingRNA の制御を介した新たな口腔癌治療戦略	27 ~ 29
基盤研究 (C)	口腔外科学	学内講師	川上 正良	顔面の形態形成を制御する新規シグナルネットワークの解明	27 ~ 29
基盤研究 (C)	成人看護学	講師	升田 茂章	限局性前立腺がん患者と家族の治療選択を支える外来看護ケアガイドラインの開発	27 ~ 29
基盤研究 (C)	女性研究者支援センター	講師	須崎 康恵	アカデミックキャリア男女間格差解消を目指した新たな医学部ジェンダー教育の構築	28 ~ 30
基盤研究 (C)	精神医学	博士研究員	岩坂 英巳	専門プログラムを用いた発達障害児支援者養成システム作りに関する研究	28 ~ 30
基盤研究 (C)	脳神経システム医科学	講師	吉原 誠一	滑脳症及び精神発達遅滞原因遺伝子 Arx による介在ニューロン移動制御機構の解明	28 ~ 30
基盤研究 (C)	生物学	講師	小林 千余子	淡水棲マミズクラゲの性決定の謎を追う	28 ~ 30
基盤研究 (C)	産婦人科学	講師	川口 龍二	簡便かつ安全に実施可能な術後静脈血栓塞栓症の管理基準の確立	28 ~ 30
基盤研究 (C)	地域健康医学	講師	佐伯 圭吾	夏の室温上昇は睡眠障害・夜間血圧上昇と関連するか?—カフレス脈波血圧を用いて—	28 ~ 30
基盤研究 (C)	第二内科学	教授	木村 弘	慢性閉塞性肺疾患における肺・消化管ネットワーク: Autophagy からの機序解明	28 ~ 30
基盤研究 (C)	第二内科学	助教	藤田 幸男	呼吸波解析を活用した新たな COPD 治療戦略の構築—呼吸の安定化を目指して—	28 ~ 30
基盤研究 (C)	栄養管理部	病院教授	吉川 雅則	慢性閉塞性肺疾患の新規治療戦略: 全身性炎症の抑制をめざして	28 ~ 30
基盤研究 (C)	神経内科学	准教授	杉江 和馬	希少難治性筋疾患におけるオートファジーを介した蛋白分解機構と病態機序の解明	28 ~ 30
基盤研究 (C)	微生物感染症学	教授	矢野 寿一	カルバペネマーゼ産生大腸菌・肺炎桿菌感染症の新規治療法構築に向けた包括的研究	28 ~ 30
基盤研究 (C)	総合周産期母子医療センター 新生児集中治療部門 (NICU)	病院教授	西久保 敏也	VWF/ADAMTS-13/F VIII 制御軸による極低出生体重児の脳室内出血の病態解明	28 ~ 30
基盤研究 (C)	病原体・感染防御医学	講師	王寺 幸輝	Wnt シグナルによる発毛の制御	28 ~ 30
基盤研究 (C)	皮膚科学	准教授	小豆 澤宏明	次世代の薬剤誘発リンパ球刺激試験の開発	28 ~ 30
基盤研究 (C)	精神医学	助教	鳥塚 通弘	シナプスプルーニング仮説に基づく iPS 細胞由来神経培養系での統合失調症病態解明	28 ~ 30
基盤研究 (C)	精神医学	講師	芳野 浩樹	社会経験で発達する前頭前野の局所的興奮・抑制性回路は治療ターゲットになるか	28 ~ 30
基盤研究 (C)	消化器・総合外科学	医員	右田 和寛	ユビキチン修飾系異常を介した癌進展機序の包括的解明と新規癌治療法の開発	28 ~ 30
基盤研究 (C)	消化器・総合外科学	医員	北東 大督	T細胞不活化経路をターゲットとする大腸癌肝転移の新規免疫療法の開発	28 ~ 30
基盤研究 (C)	消化器・総合外科学	学内講師	野見 武男	肝切除後肝不全における ADAMTS13 の関与及び新規肝不全治療戦略の確立	28 ~ 30
基盤研究 (C)	消化器・総合外科学	助教	赤堀 宇広	Myosteatosis の病態解明による肝癌新規集学的治療戦略の開発	28 ~ 30
基盤研究 (C)	胸部・心臓血管外科学	教授	谷口 繁樹	ゼラチンシートの開発	28 ~ 30
基盤研究 (C)	脳神経外科学	学内講師	中川 一郎	ミトコンドリア KATP チャンネルを介した虚血耐性現象のメカニズム	28 ~ 30
基盤研究 (C)	脳神経外科学	学内講師	西村 文彦	EGFRvIII 特異的 CAR 導入免疫細胞を用いた膠芽腫治療法の開発	28 ~ 30
基盤研究 (C)	脳神経外科学	助教	松田 良介	超免疫不全マウスを用いた膠芽腫に対する免疫細胞および PD-1 阻害薬併用療法の開発	28 ~ 30
基盤研究 (C)	脳神経外科学	助教	田村 健太郎	術中皮質脳波におけるセポフルラン濃度切替・高周波振動はてんかん焦点を推定可能か	28 ~ 30
基盤研究 (C)	集中治療部	助教	恵川 淳二	頭部外傷に対するミノサイクリンの脳への直接投与の有効性についての検討	28 ~ 30
基盤研究 (C)	泌尿器科学	助教	中井 靖	膀胱癌細胞ミトコンドリア内における鉄利用メカニズムの解明とその臨床応用	28 ~ 30
基盤研究 (C)	微生物感染症学	講師	水野 文子	ESBL 産生大腸菌の動物実験モデルにおけるキノロン耐性獲得と病原性との関係	28 ~ 30
基盤研究 (C)	泌尿器科学	博士研究員	石橋 道男	マクロファージの内在性シトウイルス応答調節と血管保護による多発性嚢胞腎進展抑制	28 ~ 30
基盤研究 (C)	産婦人科学	講師	成瀬 勝彦	炎症惹起因子を中心とした妊娠高血圧症候群の病態解明	28 ~ 30
基盤研究 (C)	産婦人科学	博士研究員	吉田 昭三	受容体を覆う「バンドエイド型」次世代ペプチド薬を用いた卵巣がん治療	28 ~ 30
基盤研究 (C)	産婦人科学	助教	重富 洋志	子宮体部病変に対する極細複合型光ファイバー内視鏡診断と治療法の確立	28 ~ 30
基盤研究 (C)	総合周産期母子医療センター 母体・胎児集中治療部門 (MFICU)	助教	吉元 千陽	MR スペクトロスコピーを用いた鉄濃度測定による子宮内膜症発癌リスクの新たな評価法	28 ~ 30
基盤研究 (C)	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	講師	成尾 一彦	妊娠中における騒音ならびに分子標的薬の胎児聴覚への影響	28 ~ 30
基盤研究 (C)	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	助教	清水 直樹	眼筋運動解析に基づいた情動・姿勢制御に関する神経機構の解明	28 ~ 30
基盤研究 (C)	めまいセンター	病院教授	山中 敏彰	重度平衡障害者に対する感覚代行リハビリテーションの持越し効果とその実用化	28 ~ 30
基盤研究 (C)	基礎看護学	教授	松田 明子	外来 RA 患者の BIO 投与に関する臨床薬理学分野の看護実践教育プログラムの構築	28 ~ 31
基盤研究 (C)	小児看護学	教授	川上 あずさ	自閉スペクトラム症児の母親がもつ「まもり」の検証と支援方法の構築	28 ~ 30
基盤研究 (C)	在宅看護学	准教授	奥田 真紀子	看護診断を基盤とした在宅標準看護計画の策定およびその有用性の検証	28 ~ 31
挑戦的萌芽研究	R I 実験施設	研究教授	森 俊雄	色素性乾皮症 A 群患者における進行性神経障害の機構解析	26 ~ 28
挑戦的萌芽研究	地域健康医学	講師	秦野 修	ステロイドホルモンの質量分析イメージングによる組織細胞上の直接可視化法の開発	26 ~ 28
挑戦的萌芽研究	脳神経システム医科学	教授	坪井 昭夫	成体神経新生を利用した脳血管障害の新規治療法の創出	27 ~ 28
挑戦的萌芽研究	第二解剖学	教授	和中 明生	グリア主導で神経回路活動は改変できるか?—三つ組みシナプス仮説の実証—	27 ~ 29
挑戦的萌芽研究	精神医学	講師	牧之段 学	社会的経験依存性前頭前野ミエリン形成と同部位シナプス形成との相関についての検証	27 ~ 29
挑戦的萌芽研究	産婦人科学	教授	小林 浩	卵巣癌転移抑制効果を発揮するバンドエイド型短鎖ペプチドの試作と実証実験	27 ~ 28

挑戦的萌芽研究	看護実践・キャリア支援センター	講師	渋谷 洋子	がんの子供が望むインフォームドコンセントのあり方に関する研究	27～29
挑戦的萌芽研究	精神看護学	講師	奥田 淳	医療観察法に基づく地域処遇者の訪問看護に携わる看護師への支援方策の構築	27～29
挑戦的萌芽研究	組換えDNA実験施設	准教授	杉浦 重樹	損傷のタイに応じて修復を允進させる損傷特異的人工EED「スルアゼ」の応用	28～30
挑戦的萌芽研究	第二生理学	教授	堀江 恭二	マイクロ流路を用いた長期1細胞計測によるES細胞の遺伝子ネットワーク解析	28～28
挑戦的萌芽研究	中央臨床検査部	病院教授	山崎 正晴	系統的エラールーブ法を用いたB型肝炎再活性化対策の構築	28～29
挑戦的萌芽研究	公衆衛生看護学	助教	小松 雅代	ICFを用いての神経・筋疾患難病患者の家族介護者へのレスパイトケアの指標開発	28～30
若手研究(B)	看護実践・キャリア支援センター	看護主査	前屋 敷明江	食品と花粉飛散量の組み合わせによるアレルギー症状の増強因子に関する研究	26～28
若手研究(B)	化学	助教	松平 崇	配置を精密に制御した高分子量ヘモグロビン集合体(人工酸素運搬体)の創製	26～28
若手研究(B)	第二解剖学	助教	田中 達英	善悪二面性を有するミクログリアのなかで保護的性質を決定する内在性因子は何か?	26～28
若手研究(B)	物理学	講師	高木 拓明	細胞運動のゆらぎから探るロバストな細胞情報処理機構	26～28
若手研究(B)	健康政策医学	講師	野田 龍也	インターネット依存症:日本におけるスクリーニングテストの開発	26～28
若手研究(B)	第三内科学	学内講師	北出 光輝	NOTCH1 選択的阻害による新たな肝再生療法の可能性	26～28
若手研究(B)	微生物感染症学	講師	中野 竜一	臨床および家畜における薬剤耐性菌の実態解明とその関連性の解明	26～28
若手研究(B)	整形外科	助教	清水 隆昌	広範囲骨欠損に対する骨形成細胞シートと血管束移植を用いた新規骨再建法確立の試み	26～28
若手研究(B)	麻酔科学	助教	西和田 忠	ミノサイクリンが発達段階の脳における全身麻酔薬の神経毒性を抑制できるか?	26～28
若手研究(B)	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	助教	山下 哲範	骨導超音波を用いた新しい耳鳴マスカ療法検討	26～28
若手研究(B)	麻酔科学	医員	仲川 洋介	酸素中性子捕捉療法(BNCT)による口腔癌細胞の生と死の制御機構の多角的解析	26～28
若手研究(B)	口腔外科学	博士研究員	前田 雅彦	ラット下顎骨顎裂モデルを用いた骨芽細胞シートの顎骨再生に関する基礎的研究	26～28
若手研究(B)	在宅看護学	助教	羽場 香織	成人人工内耳装用者の社会復帰に向けたサポートシステムの構築	26～28
若手研究(B)	産学官連携推進センター	助教	遊佐 敏彦	過疎地域における地域包括ケアのための多職種連携と見守りシステム構築に関する研究	27～28
若手研究(B)	第一内科学	医員	中川 仁	ANP系のミネラルコルチコイド受容体を介する交感神経系抑制機序の解明	27～29
若手研究(B)	第二内科学	医員	太田 浩世	睡眠時無呼吸症候群によるインスリン抵抗性の分子機構の解明	27～28
若手研究(B)	第一内科学	助教	松井 勝	PIGFを用いた慢性腎臓病における心血管病、腎障害進展の新規予測法と治療法の確立	27～29
若手研究(B)	精神医学	助教	紀本 創兵	社会経験依存性に発達する前頭前野の分子基盤の解明	27～28
若手研究(B)	精神医学	助教	井川 大輔	自閉症マウスにおけるミクログリア機能の多角的解析	27～28
若手研究(B)	放射線腫瘍医学	助教	森本 将裕	頭頸部癌放射線療法後の有害事象の体系化:正常組織障害予測モデルを用いて	27～29
若手研究(B)	中央放射線部	主査(技師)	藤谷 信将	寡分割大線量照射におけるLinear-Quadraticモデルの検討	27～28
若手研究(B)	消化器・総合外科学	医員	木下 正一	ヒト膵臓におけるCD200発現の臨床病理学的意義解明と新規標的治療の開発	27～28
若手研究(B)	中央手術部	助教	新城 武明	NMBAsの中樞神経への影響の解析	27～28
若手研究(B)	眼科学	助教	西 智	着色眼内レンズがサーカディアンリズムに及ぼす影響に関する無作為比較試験	27～29
若手研究(B)	眼科学	助教	吉川 匡宣	CHHV-6感染者におけるぶどう膜炎発生の割合とその特徴について	27～28
若手研究(B)	法医学	講師	粕田 承吾	急性アルコール中毒時の敗血症増悪機構の解明	27～28
若手研究(B)	口腔外科学	助教	上田 順宏	下顎骨再建手術シミュレーションシステムの開発	27～29
若手研究(B)	第一解剖学	助教	堀井 謹子	視床下部新規領域デルタエリアー辺縁系神経回路による情動調節機構の解明	27～28
若手研究(B)	第二解剖学	助教	森田 晶子	脳室周囲器官は炎症情報を脳実質に伝える窓口である-血管周囲免疫細胞の役割-	28～29
若手研究(B)	薬理学	助教	京谷 陽司	睡眠時無呼吸による心血管病の発症・進展メカニズムの解明と予防法の確立	28～29
若手研究(B)	分子病理学	助教	羅 奕	胃癌におけるドライバー遺伝子の変化に及ぼすヘリコクター・ピロリの役割	28～29
若手研究(B)	放射線腫瘍医学	助教	若井 展英	FFFビームを用いたIMRTにおけるMLCの品質管理に関する研究	28～29
若手研究(B)	第三内科学	助教	鍛冶 孝祐	エビジェネティックアプローチによる肝線維化治療の開発	28～30
若手研究(B)	血圧制御学	助教	熊澤 拓也	心不全における核小体を介した細胞老化誘導機構の生理学的意義の解明	28～29
若手研究(B)	第二内科学	助教	熊本 牧子	肺線維症に対する間葉系幹細胞療法を試み、新規マウスモデルによる検討	28～29
若手研究(B)	精神医学	助教	松田 康裕	統合失調症の認知矯正療法による脳の白質微細構造および機能的結合の変化に関する検討	28～30
若手研究(B)	精神医学	助教	山内 崇平	臨界期でのニューレグリン1過剰シグナルがGABAニューロン発達へ与える影響の解析	28～29
若手研究(B)	放射線医学	助教	市橋 成夫	新薬製剤溶出型バイオカバードステントの開発	28～30
若手研究(B)	放射線医学	医員	佐藤 健司	肝癌に対するビーズTACEにおけるIVR手技の標準化を目指した基礎研究	28～29
若手研究(B)	胸部・心臓血管外科学	助教	河合 紀和	ゼラチンを用いた医療用接着剤による気管支断端治療の検討	28～29
若手研究(B)	脳神経外科学	博士研究員	中澤 務	キメラ抗原受容体遺伝子改変iPS細胞由来T細胞の樹立と新規腫瘍治療法の開発	28～29
若手研究(B)	脳神経外科学	助教	竹島 靖浩	脳静脈虚血における内因性神経幹細胞応用の基礎研究	28～30
若手研究(B)	麻酔科学	助教	寺田 雄紀	新しい疼痛モデルマウスを用いた新規疼痛関連遺伝子の探索	28～29
若手研究(B)	泌尿器科学	助教	三宅 牧人	膀胱尿路上皮癌における制御性T細胞誘導に与えるケモカインの同定と治療応用	28～29
若手研究(B)	病理病態学	助教	辰巳 佳弘	尿路上皮癌のheparanaseを介した癌進展メカニズムの解析と新規治療への応用	28～29
若手研究(B)	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	博士研究員	岡安 唯	変調骨導超音波の知覚メカニズムと補聴システムについての研究	28～30
若手研究(B)	口腔外科学	医員	栗原 都	口腔癌転移巣の微小環境を規定する新規マーカーの探索	28～29
若手研究(B)	口腔外科学	医員	山本 育功美	抗癌剤治療中における味覚障害発生機序の解明と有効な治療法の開発	28～30
若手研究(B)	口腔外科学	助教	柳生 貴裕	細胞シート工学を応用した乳歯歯髄幹細胞による唇顎口蓋裂患者の新規顎裂治療法の開発	28～31
若手研究(B)	成人看護学	助教	佐竹 陽子	救急領域における緩和ケア実践プログラムの開発	28～30
若手研究(B)	整形外科	助教	稲垣 有佐	ナノコーティング技術により生体親和性および骨形成能を向上した人工靭帯の開発	28～29
奨励研究	医療技術センター	言語聴覚士	齊藤 修	聴力とマスク着用が聞き取りに与える影響の関係について	28～28
特別研究員奨励費	第一解剖学	(特別研究員)	笹川 誉世	幼少期ストレスによる植物嚙好性神経回路の可塑的変化の解明	26～28

オープンキャンパス2016開催について

●看護学科 8月7日(日)

毎年8月に医学科と看護学科のオープンキャンパスを同時期に開催していますが、今年は時期をずらしての開催となります。まず8月7日(日)に看護学科のオープンキャンパスのみ開催します。医学科については8月には開催せず、また今後の開催時期についても調整中です。医学科と看護学科では対象となる受験生が異なることから、開催時期やプログラム内容などを見直すことで、両学科の受験生に対してより効果的なオープンキャンパスとなるよう検討中です。

看護学科オープンキャンパスについては、下記のとおり開催いたしますので、関係の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。なお、医学科オープンキャンパスについては今後開催が決定次第、ホームページにてお知らせさせていただきます。

【日時】 看護学科 8月7日(日) 13:00～17:00

【場所】 大講堂

【対象】 受験生、高校生、保護者、教員、その他どなたでも参加できます。

【内容】 ●看護学科長講演 ●学科紹介・説明 ●模擬ミニ講義 ●先輩からのメッセージ
●施設見学 ●相談コーナー など



大学院入試日程

平成28年度 秋入学

大学院医学研究科(博士課程)

専攻	募集人員	出願期間	試験日	合格者発表
地域医療・健康医学専攻	若干名	平成28年7月22日(金)まで	平成28年8月8日(月)	平成28年9月6日(火)
生体情報・病態制御医学専攻				
生体分子・機能再建医学専攻				

- 社会人*の入学も可能です。 ● 社会人には、長期履修制度を設けています。
- 入学金半額免除制度(平成28・29年度入学者に限り適用)、大学院修学資金貸与制度(要件を満たした場合返還免除)があります。

平成29年度

大学院医学研究科(博士課程)

専攻	募集人員	出願期間	試験日	合格者発表
地域医療・健康医学専攻	7	平成29年1月10日(火)～1月13日(金)	平成29年1月30日(月)	平成29年3月7日(火)
生体情報・病態制御医学専攻	13			
生体分子・機能再建医学専攻	20			

- 社会人*の入学も可能です。 ● 社会人には、長期履修制度を設けています。
- 第一次募集の結果によって、第二次募集を実施しない場合があります。 ● 平成29年度秋入学の実施については未定です。
- 入学金半額免除制度(平成28・29年度入学者に限り適用)、大学院修学資金貸与制度(要件を満たした場合返還免除)があります。

大学院医学研究科(修士課程)

専攻	募集人員	出願期間	試験日	合格者発表
医科学専攻	5	第一次募集 平成28年8月29日(月)～9月2日(金) 第二次募集 平成29年1月23日(月)～1月27日(金)	第一次募集 平成28年9月20日(火) 第二次募集 平成29年2月6日(月)	第一次募集 平成28年10月11日(火) 第二次募集 平成29年3月7日(火)

- 社会人*の入学も可能です。但し、平成29年3月31日までに概ね1年以上の実務経験を有することが必要です。
- 第一次募集の結果によって、第二次募集を実施しない場合があります。

大学院看護学研究科(修士課程)

専攻	募集人員	出願期間	試験日	合格者発表
看護学コース専攻	5	第一次募集 平成28年7月25日(月)～7月28日(木)	第一次募集 平成28年8月25日(木)	第一次募集 平成28年9月6日(火)
看護学助産学実践コース専攻	5	第二次募集 平成28年10月24日(月)～10月27日(木)	第二次募集 平成28年12月1日(木)	第二次募集 平成28年12月13日(火)

- 社会人*の入学も可能です。但し、平成29年3月31日までに概ね1年以上の実務経験を有することが必要です。
- 社会人には、長期履修制度を設けています。
- 本学学部からの進学者、奈良県内に住所を有し要件を満たす者については入学金が免除される入学金免除制度があります。
- 助産学実践コースについては、修学中は学業に専念できる者とします。 ● 第一次募集の結果によって、第二次募集を実施しない場合があります。

*社会人とは医療・保健・福祉施設、教育研究機関、企業、官公庁等に勤務し、入学後もその職を有する者です。

【問い合わせ先】 教育支援課／医学研究科担当：内線2402 看護学研究科担当：内線2390

セミナー・講習会等

大和漢方医学薬学セミナー

開催日：平成28年9月1日(木) 18:00~18:30
場所：奈良医大 敵艦会館 3階大ホール
概要：「漢方の四診と症例検討」
～漢方医学の基礎と症例を交えて解りやすく解説～
講演者：大和漢方医学薬学センター 特任教授 三谷和男 氏
対象：医師・薬剤師・医療関係者 定員：150人
備考：無料・事前申込み不要
問合せ先：研究推進課 鉄村 (内線2552)

2016年 第4回・第5回 人を対象とする医学系研究講習会

開催日：①平成28年9月12日(月) ②平成28年11月8日(火)
場所：①奈良医大 大講堂 ②未定
概要：「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」等の研究に関して、一般的に遵守すべき各種規制に加えて、研究活動における不正行為や、研究活動に係る利益相反等についての教育を目的とした講習会です。臨床研究を実施する方、臨床研究を支援する方、倫理審査委員の方を対象としており、外部の方も参加いただけます。
講演者：臨床研究センター センター長 笠原 正登 氏
対象：研究に関わる者(全職員)他大学、他病院も可
定員：600名
備考：研究に関わる者は、事前に本講習会を受講してください。本講習会は年6回開催されます。少なくとも1年に1回の受講が義務づけられています。
問合せ先：臨床研究センター 野木、池本 (内線5276)

平成28年度

ホスピタリティマインド醸成研修(講義形式分)

開催日：①平成28年9月26日(月) 17:30~18:40
②平成28年11月9日(水) 17:30~18:40
場所：奈良医大 大講堂
概要：奈良医大第二期中期計画に掲げる「患者満足の一層の向上」の達成のため、良質な診療等の医療面のサービスは言うまでもなく、病院スタッフ全員の患者に対する心のこもった対応が必要という観点から、病院全職員を対象として開催するものです。
講演者：石川寛俊法律事務所 弁護士 石川寛俊 氏
対象：病院全職員
定員：600名
備考：・本院全職員が1回受講することを必須とする
・事前申込不要
・当研修は医療安全管理研修についても出席加算されます(30分以上の受講を要す)
・専門医共通講習の単位となる可能性があるため、希望者には受講証明書を発行します
問合せ先：病院管理課 吉岡 (内線3216)

「未来への飛躍基金」にご協力いただきありがとうございました

「未来への飛躍基金」に対し、多くの方々から募金のお申し込みを賜り、厚く御礼申し上げます。今号では、平成28年4月以降にお申し込みいただいた方のご芳名を掲載させていただきます。今後ともご支援を賜りますようよろしくお願いいたします。平成28年6月30日現在

【個人】

◆1,000万円以上

高比 康臣 様

掲載を希望されないご寄附者様 1名

◆100万円以上1,000万円未満

五島 淳 様 水本 茂 様 水本 保子 様

◆30万円以上100万円未満

河田 充弘 様 杉本 潤 様 田中 康仁 様
中井 敏幸 様 中谷 勝紀 様 藤本 政彦 様
堀川 良子 様 三上 洋 様 宮田 重樹 様
山下 圭造 様

◆10万円以上30万円未満

秋岡 勝哉 様 井川 景子 様 野見 恭子 様
野見 武男 様

掲載を希望されないご寄附者様 3名

◆10万円未満

掲載を希望されないご寄附者様 4名

◆金額の公表を希望されないご寄附者様

高橋 弘雄 様 坪井 昭夫 様 新田 望 様
吉原 誠一 様

(五十音順)

学報編集委員会 からのお知らせ

寄稿記事募集案内

「学報」では、奈良県立医科大学や附属病院に関する出来事、お知らせ等を掲載いたしておりますが、これらに関連する記事を皆様からも広く募集いたします。ご興味のある方は内線2206までお問い合わせください。
なお「学報」は毎年1、4、7、10月に発行しており、本学教職員・学生のみならず本学同窓会会員や関連大学・病院等にも配布しております。



メディア掲載情報をお寄せください ~学報紙面で紹介します~

新聞・雑誌・テレビ等マスコミの取材、テレビ出演、記事を掲載された教職員・学生をこの「学報」紙面で紹介します。

掲載者	掲載メディア	掲載概要
今村 知明 教授 (健康政策医学)	CBnews マネジメント 2016年4月19日 12:00 配信 タイトル：地域医療構想は、破綻回避への最後の手 ーレポート・地域医療構想【識者はこう見る】ー http://www.cabrain.net/management/article/48580.html	今村は、地域医療構想に関する厚生労働科学研究「病床機能の分化・連携や病床の効率的利用等のために必要となる実施可能な施策に関する研究」の代表をつとめている立場から、地域医療構想について意見を述べた。
梅田 智広 研究教授 (産学官連携推進センター、MBT 研究所)	読売新聞 朝刊 2016年6月6日(月) スマートシニア④	年をとっても元気にという健康長寿への望みにICTを活用の事例紹介として、MBTで取り扱う1テーマであるヘルスケアマネジメントシステム(アプリケーションソフト)が取り上げられた。
	読売テレビ 2016年4月28日(月) ZIP	最新ヘルスケア特集で、MBT 構想およびその取り組み事例として、ビーコンを活用した“街全体で人を見守る”サービスが取り上げられた。番組ではタレントさんに今井町にて実際にサービスを体験してもらった。町内で隠れてもらったタレントさんの居場所、移動距離、歩数、消費カロリーなどの特定を通じ、本研究の目的や将来構想などについて説明した。
	ならどっとFM 2016年6月3日(金) 15:00 ~ 15:30 『to bridge! 子どもたちに笑顔と希望を届~大きな病気と闘う子ども達とその家族に私たちができること』	今までにセンサを活用したバイタルサインの計測、評価方法の検討、さらにICT、IoTを活用した健康管理、見守りシステムなどの開発に関与してきた。それら経験を通じ、重い病気の子供も達、そして家族のために何が出来るかについて議論した。また、リスナーの方からの質問に答えた。
日経BP社 ITpro ACTIVE 2016年6月21日(火) 医大を中心に街づくり	高齢者や児童の見守りなど、幅広い視野でICTを駆使した街づくりへの挑戦が始まろうとしているとの記事にて、地域住民や街の様々な情報を集約し、安心・安全な街を目指すMBT構想および今後の取り組みが取り上げられた。	

編集後記

この号から編集に関わることとなり、改めて紙面に目を通しますと、職員数2,600、学生数1,100を抱える奈良医大は大企業並みの所帯であることを実感します。この夏は地球の裏側でのオリンピック、寝不足になりそうです。「いつのオリンピックから覚える？」これで世代がわかるのですが、東京をリアルタイムTV観戦した世代は、幾つもの思い出があるはず。小学2年だった私の中では、深夜まで息詰まる一騎打ちだった棒高跳び決勝がベストです。国全体が上向きで、皆が素直に日の丸を振って熱狂した良い時代でした。この猛暑に運動は辛いですが、しっかり休暇を取って、リフレッシュして下さい。(編集委員長)

○大林 千穂 (病理診断学)
藤本 雅文 (物理学)
京谷 陽司 (薬理学)
小川 浩平 (皮膚科)
乾 つぶら (母性看護学)
西 幸江 (看護部)
森田 英之 (総務課)
阪田 聖基 (総務課)
勝本英一郎 (研究推進課)
日浦 嗣子 (教育支援課)
廣田 雅彦 (病院管理課)
(○印は編集委員長)

学報バックナンバーはwebサイト上でもご覧いただけます。
(<http://www.naramed-u.ac.jp/info/introduction/magazine.html>)